

第1章

小学生の 学習に関する意識・実態

- 「学習に関する意識・実態調査」の分析より -



第1節 小学生の学習行動

1. 学校での学習の様子

①好きな教科・嫌いな教科

小学生が好きな教科のベスト・スリーは、「図画工作」「体育」「家庭」の順で、およそ8割の子どもがこれらの教科を「好き」と回答し、第4位の「音楽」を加えて上位4教科はいずれも実技系の教科である。好きな教科には性別に大きな差があり、ジェンダー・バイアスが大きい。



あなたは、次の教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。

図1-1-1にあるように、「とても好き」と「まあ好き」の合計でみると、小学生が好きな教科のベスト・スリーは、「図画工作」が83.6%、「体育」が81.6%、「家庭」が79.6%の順で、およそ8割の子どもがこれらの教科を「好き」と答えている。これに第4位の「音楽」69.7%を加えて、小学生が好きな上位4教科はいずれも実技系であった。

これに対して、「好き」と答える割合が少ないワースト・スリーは、「社会」49.6%、「国語」54.7%、「算数」55.6%の順であり、「好き」と答える子どもは5割前後にとどまっている。いずれも非実技系の教科であった。なお、非実技系であるにもかかわらず第1回調査(1990年)で3位の71.4%であった「理科」は、第2回調査(1996年)が4位の71.3%、そして第3回調査(2001年)は5位の68.2%と数値が伸び悩み、順位で「家庭」や「音楽」に抜かれている。さらに、この11年間で大きく上昇したのは、「図画工作」と「家庭」と「音楽」の3教科である。これらのうち、「図画工作」は「体育」を抜いて好きな教科の第1位に躍進し、「家庭」と「音楽」もおよそ12

ポイントの大きな増加をみている。

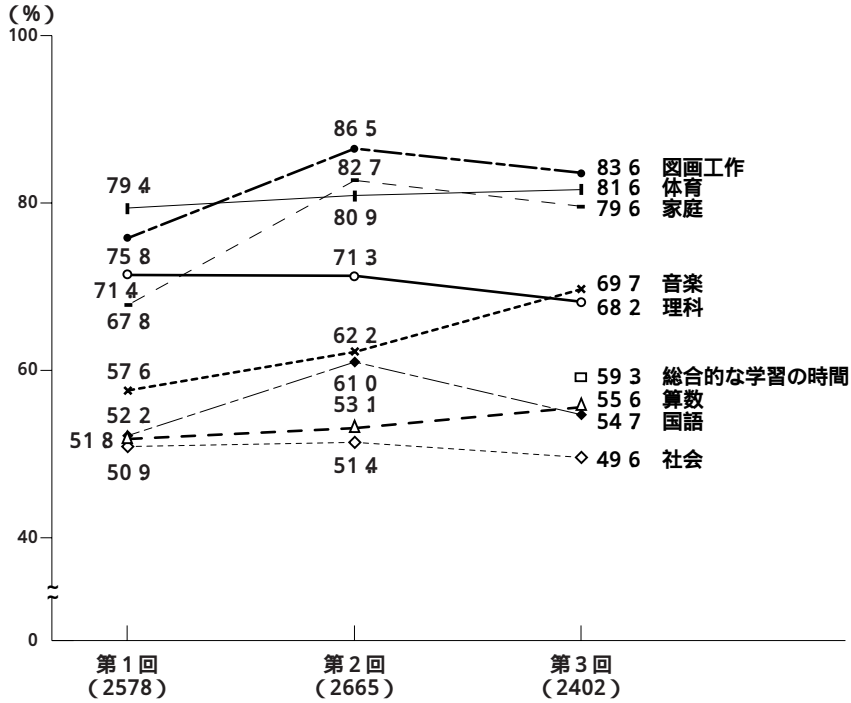
なお、新しい学習形態として期待されている「総合的な学習の時間」は59.3%と6割にとどまっている。今後の工夫が必要とされる。

また、図1-1-1で、新しく導入された「総合的な学習の時間」を除いて、残りの8教科を「好き」と答えた割合(%)を合計すると、第1回調査が506.9%であったのに対して、第2回がおよそ40ポイント増加して549.1%となったが、第3回調査はやや減少して542.6%となっている。すなわち、現在の学習指導要領が導入されたのちに、小学生が教科を好きになる割合は全体として大きく上昇したが、その後は伸び悩んでいる。

次に、表1-1-1は、第3回調査の結果から、性別に好きな教科の割合をみたものであるが、この表から好きな教科の性差がとても大きいことがわかる。女子が男子より10ポイント以上多かった教科は「国語」「音楽」「家庭」の3教科であり、反対に男子が女子より10ポイント以上多かった教科は「算数」「理科」のいわゆる理数系の2教科であった。ジェンダー・バイアスのない教育が理想とさ

れ、実際に、男女混合名簿の導入なども進め に関して、相変わらず、大きな性差が残さ
 られている。しかしながら、授業の好き嫌い れたままになっている。

図1-1-1 好きな教科(時系列)



注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
 注2) 「総合的な学習の時間」にだけ、選択項目の中に「やっていない」(2.8%)が含まれる。
 注3) ()内はサンプル数。

表1-1-1 好きな教科(性別)

教科	(%)	
	男子 (1238)	女子 (1154)
国語	44.9	65.1
社会	53.4	45.4
算数	62.2	48.5
理科	75.8	60.0
音楽	55.1	85.2
図画工作	82.3	85.0
体育	86.0	76.9
家庭	70.1	89.8
総合的な学習の時間	55.4	63.6

注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
 注2) <>は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。
 注3) ()内はサンプル数。

②授業の理解度

授業を理解している割合は、「理科」が72.6%、「国語」が71.2%、「算数」が69.1%とおおよそ7割。好きな教科で Worst であった「社会」は理解度も低く61.5%である。また、授業を理解することが授業を好きになることの非常に重要な要素となっている。

Q

学校の授業をどのくらい理解していますか(わかっていますか)。

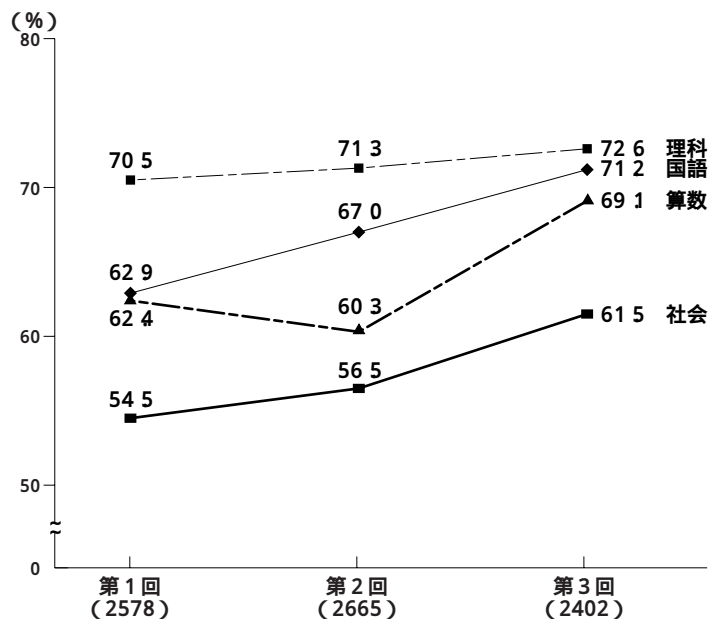
一般に、授業の理解度は「七五三」だといわれている。つまり、小学生は7割が授業を理解するにとどまり、中学生は5割、高校生は3割だというのである。言い換えると、小学生では3割が落ちこぼれ、中学生では5割が落ちこぼれ、高校生ではなんと7割が落ちこぼれであるとされている。図1-1-2で、第3回調査の結果をみると、小学生についてはほぼその説が裏づけられる結果となった。5段階の選択肢のうち、「ほとんどわかっている」と「だいたいわかっている」を合計し

た割合をみると、授業を理解している割合は、「理科」が72.6%、「国語」が71.2%、「算数」が69.1%とおおよそ7割となっている。ただし、好きな教科で Worst であった「社会」は理解度も低く61.5%となっている。

また、理解度の時系列の変化では、「理科」が微増であった他は、他の3教科では第1回調査よりも第3回調査のほうが7～8ポイント理解度が高まっている。授業はわかるようになってきている。

図1-1-3は、性別に授業の理解度をみ

図1-1-2 授業の理解度(時系列)



注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「だいたいわかっている」の合計。

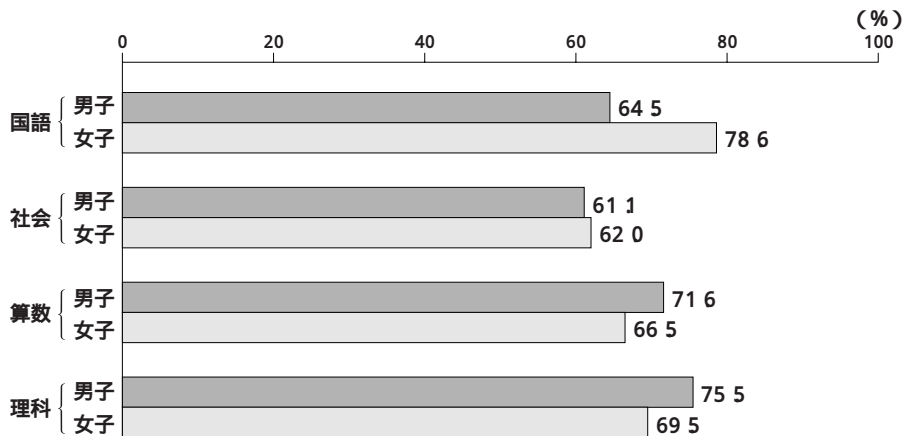
注2) ()内はサンプル数。

た結果である。「国語」の理解度で女子が78.6%に対して男子が64.5%となっている。「国語」はジェンダー・バイアスの大きな教科である。反対に、男子のほうが女子よりも理解度が高かったのは、「算数」(71.6%対66.5%)と「理科」(75.5%対69.5%)でそれぞれ男子のほうが5～6ポイント高くなっている。

最後に、表1-1-2で、授業の理解度と授業の好き嫌いの関係を見る。容易に予想できるように、授業を理解することが授業を好きになることの重要な要素となっている。「国語」が「わかる」(「ほとんどわかっている」「だいたいわかっている」と回答した)子ども

もは65.9%が「国語」が「好き」と答えているのに対して、「わからない」(「半分くらいわかっている」「あまりわかっていない」「ほとんどわかっていない」と回答した)子どもは27.3%が「国語」が「好き」と答えるにとどまっている。「社会」でも同じく65.7%対24.1%、「理科」でも81.3%対33.4%、そして「算数」ではなんと72.3%対18.2%となっている。教科を好きになることは、新学力観の観点からすると、とても大切であることはいうまでもないが、教科を好きになるに際しても、授業がわかることがとても重要な要素となっているのである。

図1-1-3 授業の理解度(性別)



注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「だいたいわかっている」の合計。

注2) サンプル数は男子1238人、女子1154人。

表1-1-2 授業が好きな割合(授業の理解度別)

		人数(人)	授業が好きな割合(%)
国語	わかる	1711	65.9
	わからない	679	27.3
社会	わかる	1477	65.7
	わからない	912	24.1
算数	わかる	1659	72.3
	わからない	727	18.2
理科	わかる	1745	81.3
	わからない	637	33.4

注1) 各教科とも「わかる」は、「ほとんどわかっている」「だいたいわかっている」と回答した児童。「わからない」は、「半分くらいわかっている」「あまりわかっていない」「ほとんどわかっていない」と回答した児童。

注2) 「授業が好きな割合」は、それぞれの教科について「とても好き」「まあ好き」という回答の合計。

③ががんばって勉強したい教科

ががんばって勉強したい教科（非実技系）は、「算数」が断然多く50.9%、続いて「国語」が33.6%、「社会」が32.5%、「理科」が24.6%、「総合的な学習の時間」が21.7%になっている。また、教科の理解度とががんばりたい教科とはほとんど相関がない。つまり、その教科を「わかる」「わからない」とががんばって勉強したいか否かは関係がない。

Q

あなたは、これから学校で、どんな教科や学習の時間をがんばって勉強したいと思いますか。特にががんばりたいと思うものを3つまで選んでください。

次に、ががんばって勉強したい教科についてみてみよう。図1-1-4①は、「国語」「社会」「算数」「理科」「総合的な学習の時間」の非実技系の5つの教科（学習）をががんばって勉強したいと思うかを尋ねた結果である。なお、ここでの質問形式は、9教科（学習）の中から3つを選んでもらう形式であり、実際には、もっと多くの子どもがそれぞれの教科をががんばって勉強したいと思っているものと考えられる。

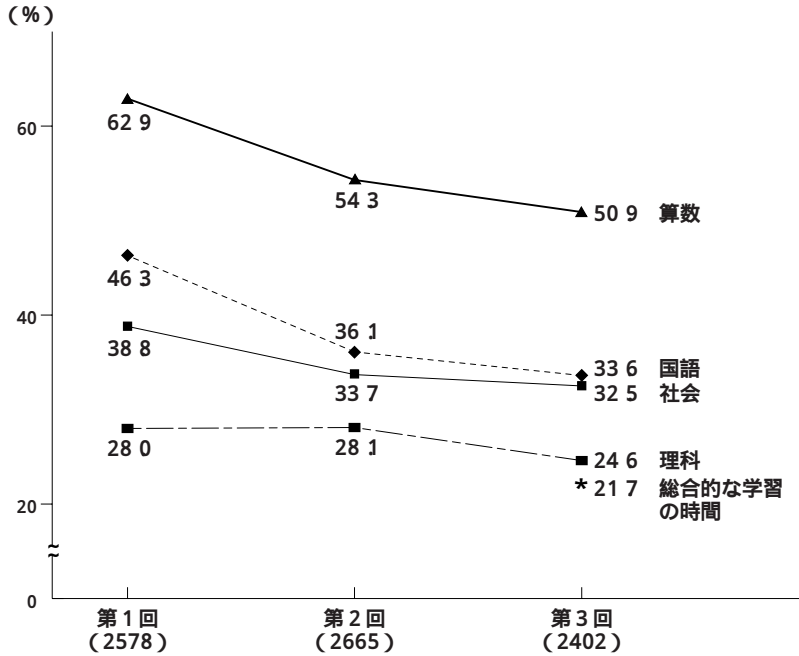
まず、第3回調査の結果に着目すると、「算数」が断然多く50.9%とおよそ半分の子どもが選んでいる。続いて「国語」が33.6%、「社会」が32.5%でおよそ3分の1の子どもが選んでいる。これらに対して、「理科」が24.6%、「総合的な学習の時間」が21.7%とこの2つの教科（学習）では2割台になっている。

時系列でみると、第1回調査から第2回調査にかけて、「理科」以外の教科は、ががんばって勉強したい割合が減少している。そして、第2回調査から第3回調査にかけては「理科」も含めてすべての教科で減少をみている。ただし、ここで統計的に注意しておかなければならないことがある。第3回調査からは選択肢に「総合的な学習の時間」が加わった結果、子どもたちはそれまで8教科の中から3つまでを選んでいたので、9教科（学習）の中から3つまでを選ぶようになったというこ

とである。したがって、ががんばって勉強したい割合は、それまでと比べて平均して9分の8に減少しているということである。したがって、第3回調査の「算数」は50.9%であるが、これまでと同じ条件ならば、8分の9倍して57.3%が選択されていたものと推測される。同じく、「国語」は37.8%、「社会」が36.6%、「理科」は27.7%と推測され、この推測値をもとに時系列の変化をみると、第2回調査から第3回調査への変化は「算数」「国語」「社会」の3教科では、ががんばって勉強したい割合がやや上昇に転じていることになる。そして前述の第1回調査から第2回調査までの変化と合わせてみると、第1回調査から第2回調査にかけて、「理科」以外の教科では、ががんばって勉強したい割合が減少し、第2回調査から第3回調査への変化は「算数」「国語」「社会」の3教科では、ががんばって勉強したい割合がやや上昇に転じている。

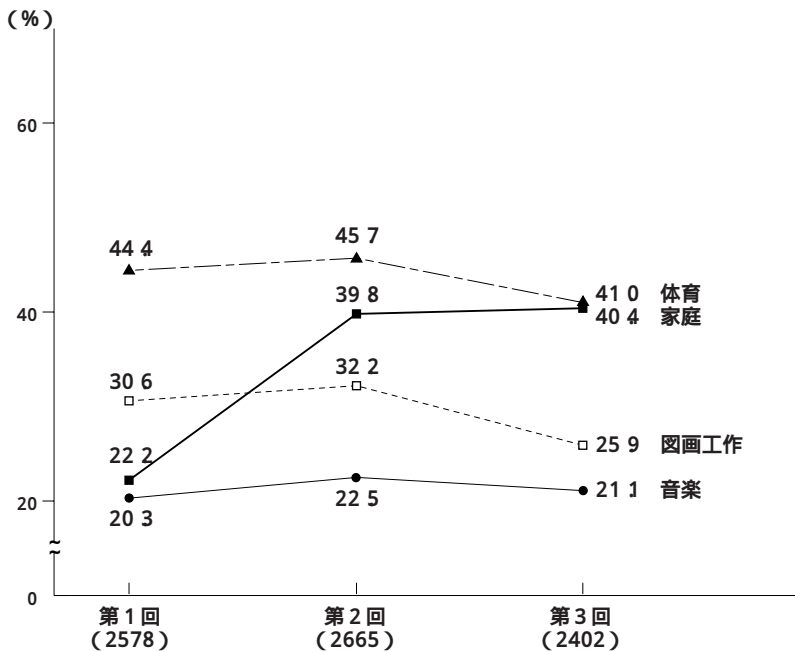
次に、図1-1-4②で、実技系の教科のががんばって勉強したい割合をみると、「体育」がもっとも高く41.0%、続いて「家庭」が40.4%とこの2教科が4割を超えている。これに対して、好きな教科ベスト・ワンだった「図画工作」は25.9%と4分の1にとどまり、さらに、「音楽」では21.1%の2割強となっている。過去11年間の変動では、「家庭」が大きく伸び、「図画工作」が伸び悩んでいる。

図1-1-4 がんばって勉強したい教科(非実技系)(時系列)



注1) 第1回、第2回は8教科中から3つまでを選択、第3回は9教科中から3つまでを選択する。
注2) ()内はサンプル数。

図1-1-4 がんばって勉強したい教科(実技系)(時系列)



注1) 第1回、第2回は8教科中から3つまでを選択、第3回は9教科中から3つまでを選択する。
注2) ()内はサンプル数。

続いて、がんばって勉強したい教科を性別にみると、表1-1-3にあるような性差がみられた。男子のほうが多かったのが、「体育」(男子46.5%対女子35.0%)と「国語」(36.1%対31.1%)、「理科」(27.2%対22.0%)、「図画工作」(29.9%対21.5%)であった。これらとすでにみた、性別にみた好きな教科との関連をみると、「国語」は女子のほうが好きな教科であり、「理科」は男子のほうが好きな教科である。性別にみた教科の好き嫌いとは、一致する場合としない場合があることがわかる。

反対に女子のほうが多かったのは「家庭」(男子34.4%対女子46.9%)、「算数」(47.2%対54.7%)、「総合的な学習の時間」(19.5%対24.0%)であった。すでにみた性別の好きな教科との関連では、「家庭」は女子のほう

が好きな教科であり、「算数」は男子のほうが好きな教科である。ここでも、性別にみた教科の好き嫌いとは、一致する場合としない場合がある。

最後に、図1-1-5で、教科の理解度別にがんばって勉強したい教科をみてみよう。結論から述べると、理解度とがんばりたい教科とはほとんど相関がない。「わかる」「わからない」とがんばって勉強したい教科の関係は、「国語」(「わかる」33.2%対「わからない」35.2%)、「社会」(32.6%対32.5%)、「算数」(49.4%対55.0%)、「理科」(24.8%対24.6%)となっており、「算数」でわずかな差があるだけである。「わかる」からがんばって勉強したいという子どもと、「わからない」からがんばって勉強したい子どもの両者がいるものと思われる。

表1-1-3 がんばって勉強したい教科(性別)

(%)

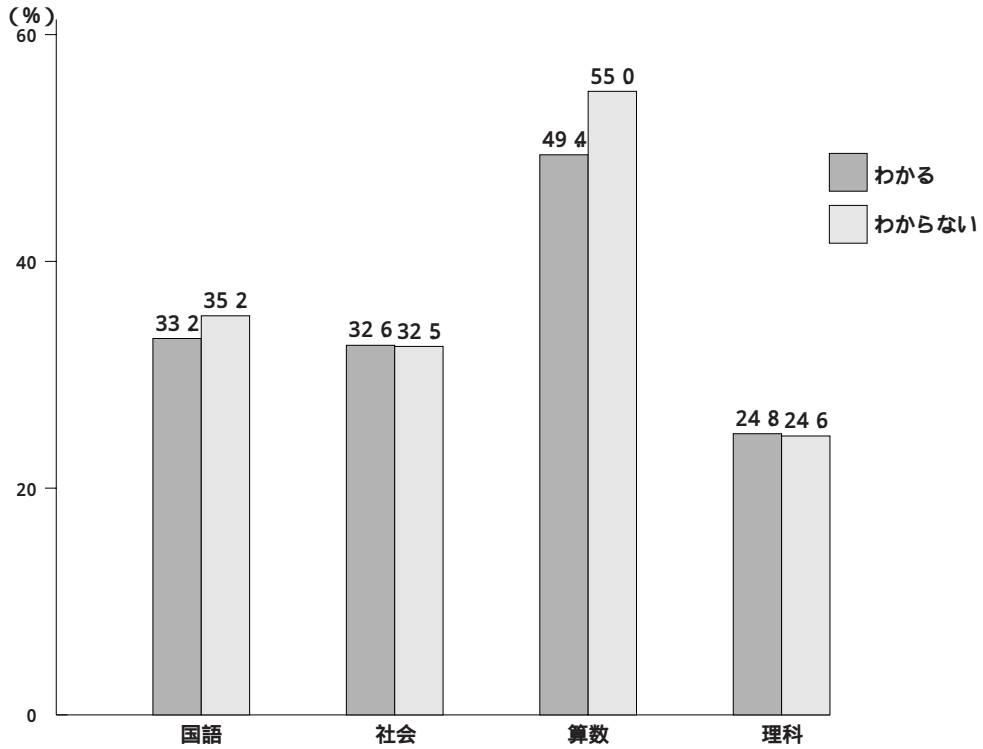
	男子(1238)		女子(1154)
国語	36.1	>	31.1
社会	31.4		33.8
算数	47.2	<	54.7
理科	27.2	>	22.0
音楽	19.6		22.7
図画工作	29.9	>	21.5
体育	46.5	≫	35.0
家庭	34.4	≪	46.9
総合的な学習の時間	19.5		24.0

注1) 9教科中から3つまでを選択する。

注2) ≪ ≫は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。

図1-1-5 がんばって勉強したい教科（非実技系）（教科の理解度別）



注1) 各教科とも「わかる」は、「ほとんどわかっている」「だいたいわかっている」と回答した児童。
「わからない」は、「半分くらいわかっている」「あまりわかっていない」「ほとんどわかっていない」と回答した児童。
注2) 9教科中から3つまでを選択する。
注3) サンプル数は2402人。

④授業の受け方

「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」が88.8%など、小学生の授業中の学習態度は全体としてはまじめである。しかし、「授業時間になっても教室に入らない」が10.6%など、授業に参加・集中しない傾向もややみられる。また、新学力観のもとで授業がわかりやすく楽しくなり、「落ちこぼれ」と呼ばれる子どもたちが減少しているが、その反面、「吹きこぼれ」と呼ばれる子どもたちが増加している。



あなたの授業中の様子についてお聞きします。

近年、マスコミが学級崩壊などという恐ろしい言葉で小学校の授業が困難になったと訴えている。しかし、実態調査を通してはそのような恐ろしい感じが浮かび上がってくることはない。第3回調査でも、表1-1-4にみられるように、学習態度に関しては、「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」が88.8%（「よくある」と「時々ある」の合計）、「友だちの意見や発表をしっかりと聞く」が87.1%と両者ともに9割近くもあり、子どもたちは非常にまじめに授業を受けている。さらに、「テストで間違えた問題をやり直す」が76.8%、「自分の考えや意見を発表する」が55.4%、「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」が46.9%、「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」も30.7%いた。積極的に勉強している様子がうかがえる。性別では、「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」「友だちの意見や発表をしっかりと聞く」「テストで間違えた問題をやり直す」「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」などで、女子のほうが学習態度がよい。

また、授業中の逸脱行動に関しては、「授業中にいねむりをする」が4.1%、「授業中に、他の科目や塾の勉強をする」が5.3%と逸脱率はわずかな値になっている。子どもたちはまじめである。ただし、「授業中、勝手に席

を離れる」が7.0%、「授業時間になっても教室に入らない」が10.6%、「先生に注意されても友だちとおしゃべりを続ける」が12.0%などと答えている。40人学級に換算すると、それぞれの項目で3人から4人が、授業に「参加していない」ことになる。さらに、「近くの人とおしゃべりする」が65.0%、「ぼーっと他のことを考えている」が40.2%と回答しており、授業に集中しない傾向もみられる。すでにみたように、板書をしっかりと行うなど、小学生はまじめに授業を受けており、そうした意味では学級崩壊と呼ぶような状況はない。しかしここにもるように、子どもたちは従順に学級の規範にしたがっているわけではない。授業をより一層楽しく、興味深いものにすることが求められる。また、その際には、すべての項目で男子のほうが逸脱率が高い割合になっていることへの配慮も求められる。学校教育では、あまりに長い間、男子は逸脱しやすいものと決めつけられ、男子の授業不適応があきらめ＝放任されがちであった。

なお、授業の難しさについては、「授業の内容が難しいと思う」が52.6%と5割強、「授業の内容が簡単すぎると思う」が42.1%と4割強になっている。また、「本当は解ける問題を不注意で間違えるとくやしいと思う」が78.7%、「テストで間違えるとくやしいと思う」が77.5%と、克己心や反発力にかかわる項目で高い割合の回答になっている。

表1-1-4 授業の受け方(性別)

(%)

	全体(2402)	男子(1238)	女子(1154)
学習態度			
黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く	88.8	84.1	< 93.8
友だちの意見や発表をしっかりと聞く	87.1	83.6	< 90.8
テストで間違えた問題をやり直す	76.8	73.1	< 81.0
自分の考えや意見を発表する	55.4	59.8	> 50.6
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く	46.9	41.8	≪ 52.3
授業でわからないことは、あとで先生に質問する	30.7	32.3	28.8
難易度			
授業の内容が難しいと思う	52.6	49.6	< 55.9
授業の内容が簡単すぎると思う	42.1	48.0	≫ 36.0
克己心・反発力			
本当は解ける問題を不注意で間違えるとくやしいと思う	78.7	78.1	79.5
テストで間違えるとくやしいと思う	77.5	76.0	78.8
逸脱			
近くの人とおしゃべりをする	65.0	68.6	> 60.8
ぼうっと他のことを考えている	40.2	42.9	> 37.2
マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	26.3	28.1	24.5
先生に注意されても友だちとおしゃべりを続ける	12.0	15.8	> 7.8
授業時間になっても教室に入らない	10.6	15.4	> 5.6
授業中、勝手に席を離れる	7.0	10.2	> 3.7
授業中に、他の科目や塾の勉強をする	5.3	7.0	3.5
授業中にいねむりをする	4.1	5.2	2.9

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) ≪ ≫は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。

次に、授業の受け方の11年間の変化を追ってみよう。「学習に関する意識・実態調査」では、表1-1-5にある10項目の授業の受け方について、第1回調査から連続して尋ねている。まず、学習態度に関連する項目では、「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」が82.8% 87.8% 88.8%、「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」が37.4% 45.8% 46.9%となっており、ノートをとる割合が増加している。一方、「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」は33.9% 36.7% 26.3%と減少している。小学生の授業中の学習態度はまじめになってきている。

また、興味深いのは、「落ちこぼれ」、「吹きこぼれ」といわれている授業の難易度についての変化である。落ちこぼれにかかわる質問である「授業の内容が難しいと思う」は第1回調査の41.5%から第2回調査には55.4%

と14ポイント近く高くなったが、第3回調査には52.6%とやや減っている。つまり、第3回調査は第2回調査と比べてわずかではあるが、授業がわかるようになってきている。しかしながら、吹きこぼれにかかわる質問である「授業の内容が簡単すぎると思う」に対しては27.5% 35.2% 42.1%と一貫して高くなっている。つまり、吹きこぼれが進んでいる。新学力観のもとで、授業がわかりやすく楽しくなり、落ちこぼれと呼ばれる子どもたちが減少しているが、同時に吹きこぼれと呼ばれる子どもたちが増加している。

次に、表1-1-6は、成績の自己評価別に授業の受け方をみたものである。残念ながら、成績ごとの授業中の様子には大きな差があった。成績自己評価の下位者のほうが多かった回答は、「授業の内容が難しいと思う」という、授業の難しさに関する項目と「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」「ぼうっと他

表1-1-5 授業の受け方（時系列）

	(%)		
	第1回(2578)	第2回(2665)	第3回(2402)
黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く	82.8	87.8	88.8
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く	37.4	45.8	46.9
授業でわからないことは、あとで先生に質問する	26.0	31.8	30.7
ぼうっと他のことを考えている	38.0	39.3	40.2
授業の内容が難しいと思う	41.5	55.4	52.6
授業の内容が簡単すぎると思う	27.5	35.2	42.1
近くの人とおしゃべりをする	66.3	66.4	65.0
マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	33.9	36.7	26.3
授業中に、他の科目や塾の勉強をする	3.2	8.3	5.3
授業中にいねむりをする	3.5	5.2	4.1

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) ()内はサンプル数。

のことを考えている」「授業時間になっても教室に入らない」「授業中、勝手に席を離れる」などの逸脱に関する項目であった。反対に、成績自己評価の上位者に多かった回答は「授業の内容が簡単すぎると思う」「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことは

ノートに書く」「友だちの意見や発表をしっかりと聞く」「自分の考えや意見を発表する」などの学習態度に関する項目や「テストで間違えるとくやしいと思う」「テストで間違えた問題をやり直す」といった克己心や反発力に関する項目であった。

表1 - 1 - 6 授業の受け方（成績の自己評価別）

	(%)			
	上位(750)	中位(809)	下位(775)	差
授業でわからないことは、あとで先生に質問する	31.9	32.8	26.5	>
授業の内容が難しいと思う	29.7	56.4	71.6	≪
授業の内容が簡単すぎると思う	60.8	38.3	27.7	≫
授業中にいねむりをする	2.8	3.0	6.1	
マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	21.5	23.5	33.5	≪
近くの人とおしゃべりをする	60.9	64.6	69.7	<
授業中に、他の科目や塾の勉強をする	4.7	5.1	6.2	
ぼうっと他のことを考えている	31.9	38.6	51.0	≪
黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く	90.8	91.1	84.1	>
授業時間になっても教室に入らない	8.0	9.6	13.8	<
授業中、勝手に席を離れる	4.5	6.6	9.7	<
先生に注意されても友だちとおしゃべりを続ける	9.6	9.9	16.4	<
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く	54.7	47.8	37.8	≫
本当は解ける問題を不注意で間違えるとくやしいと思う	80.8	80.2	75.2	>
テストで間違えるとくやしいと思う	80.1	79.1	72.9	>
テストで間違えた問題をやり直す	83.1	81.8	65.0	≫
友だちの意見や発表をしっかりと聞く	92.9	89.5	78.6	≫
自分の考えや意見を発表する	75.2	53.8	38.3	≫

注1) 成績の自己評価は、「あなたの今の成績はクラスの中でどのくらいですか」の項目に、「1(上のほう)~3」と回答した児童を「上位」、「4(真ん中)」を「中位」、「5~7(下のほう)」を「下位」とした。

注2) ≪ ≫は上位と下位で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。

最後に表1-1-7で、克己心・反発力に関連して、「テストで間違えるとくやしいと思う」という気持ちが「テストで間違えた問題をやり直す」という行動に結びつくか否かをみてみよう。この表は、タテに100%をとってあるが、テストを間違えて「くやしい」と思った子どもは約8割の80.6%が「やり直

す」と答えている。これに対して、「くやしくない」と思う子どもは34.7%が「やり直さない」で終わる。とはいえ、約3分の2にあたる64.4%がやり直しをする。くやしくても2割がやり直さず、くやしくなくても3分の2がやり直すという結果になっている。

表1-1-7 テスト間違えをやり直すか(テスト間違えをくやしいと思うか別)

(%)

		テストで間違えるとくやしいと思う	
		くやしい (1861)	くやしくない (519)
テストで間違えた問題をやり直す	やり直す	80.6	64.4
	やり直さない	19.0	34.7
	無答・不明	0.4	1.0

注1)「やり直す」は、「テストで間違えた問題をやり直す」の項目の「よくある」と「時々ある」の合計。「やり直さない」は、「あまりない」と「ほとんどない」の合計。

注2)「くやしい」は、「テストで間違えるとくやしいと思う」の項目に「よくある」「時々ある」と回答した児童。「くやしくない」は、「あまりない」「ほとんどない」と回答した児童。

注3) ()内はサンプル数。

⑤好きな学校の勉強方法

小学生が好きな勉強方法は、第1位が「パソコンを使ってする勉強」で91.3%。続いて、「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」「グループで何かを考えたり調べたりする授業」「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」などで、いずれも8割を超える子どもが「好き」と回答している。新学力観や総合的な学習などと結びつきやすい勉強方法と同時に、従来からの基本的な勉強方法も好かれている。



あなたは、次にあげる学校の勉強方法は、どのくらい好きですか。

図1-1-6は、学校のさまざまな勉強方法を好きか嫌いか尋ねた結果である。「とても好き」「好き」を合計して、もっとも多かったのは、「パソコンを使ってする勉強」で91.3%、9割を超える高い値であった。続いて第2位以下は、「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」が86.9%、「グループで何かを考えたり調べたりする授業」が85.2%、「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」が84.8%、「友だちと話し合いながら進めていく授業」が81.8%となっている。ここまでの5つが8割を超えていた。新学力観や総合的な学習などと結びつきやすい勉強方法が高い値を示している反面、「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」という従来からの基本的な勉強方法も8割を超える値となっていることが興味深い。

反対に、好きな割合が低かったのは「個人（自分一人）で何かを考えたり調べたりする授業」の51.3%で、続いて、「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること」が54.9%でここまでが5割台であり、小学生は個人作業や工夫しての情報の発信がそれほど好きでない。さらに、「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」が69.4%、「いろいろな人に聞きに行っている授業や調査」が67.6%、「ドリルやプリントを使ってする授業」が67.1%で、この3つは6割台で

あった。「グループで何かを考えたり調べたりする授業」が好きなのに、「個人（自分一人）で何かを考えたり調べたりする授業」「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」が好きでないといった主体性・自主性の弱さ、「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」が好きなのに「いろいろな人に聞きに行っている授業や調査」が好きでないといった社交性の弱さがみとれる。

なお、「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」は84.8%と高い値であったが、「とても好き」だけを見ると、わずか24.1%で低い値であった。チョーク・アンド・トークという基本的な授業方法は「好き」ではあるが、「とても好き」には至らない勉強方法である。

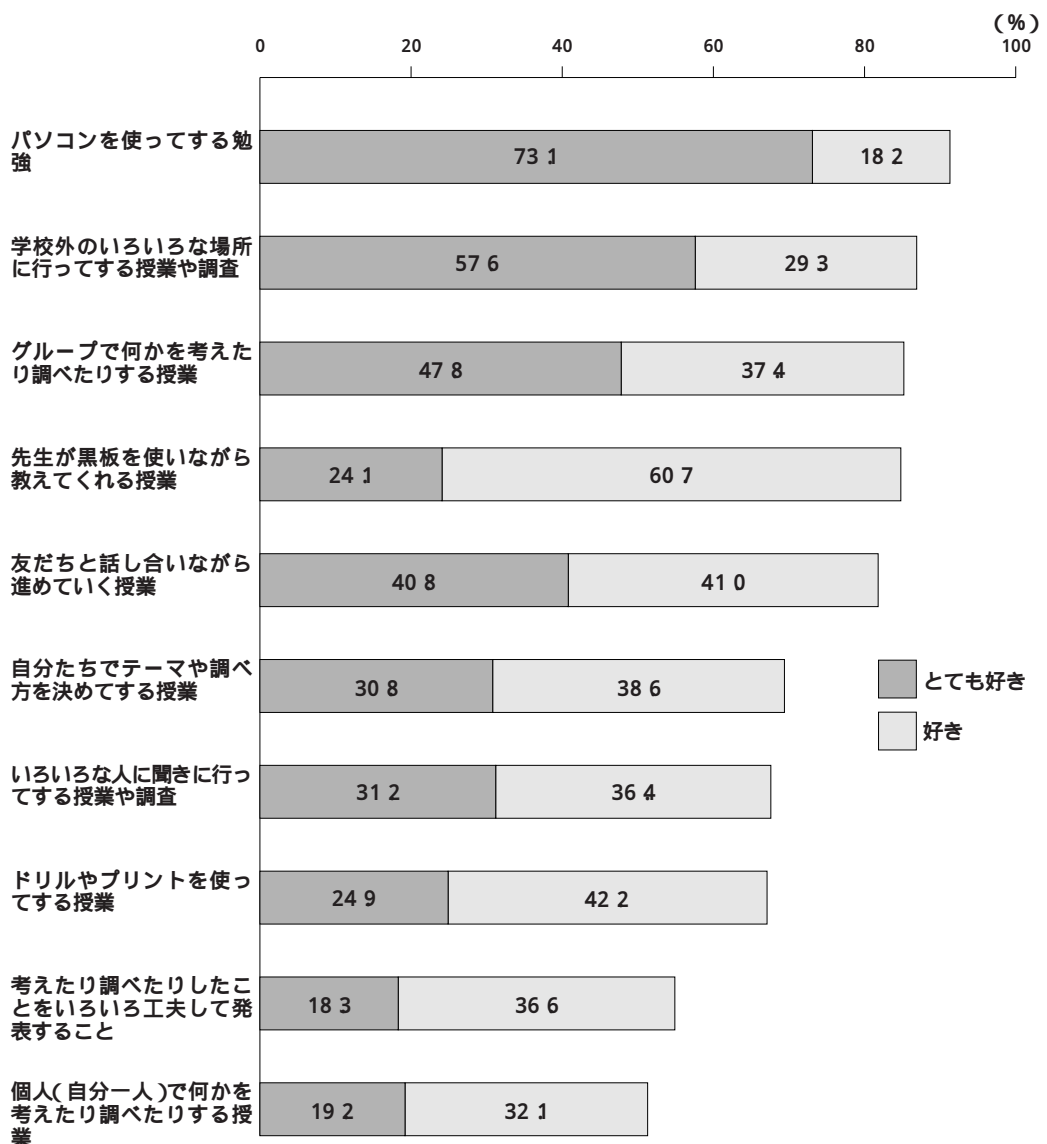
続いて、図1-1-7で、性別に小学生が好きな勉強方法をみると、「パソコンを使ってする勉強」は、男女ともに9割以上が「好き」と答えており性差がほとんどない。それ以外では、今回質問した勉強方法の中で、男子のほうが女子よりも好きな割合が高いのは「個人（自分一人）で何かを考えたり調べたりする授業」で男子がわずかに高いだけで、全体的にみて、女子のほうが好きな割合が高いことがわかる。特に、「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」「友だちと話し合いながら進めていく授業」「グループで何かを考えたり調べたりする授業」「自分たちで

テーマや調べ方を決めてする授業」「いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査」「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること」などで女子のほうが高い割合になっている。近年、授業場面で用いられるようになってきた勉強方法の多くは“女子好み”の勉強方法である。

最後に、表1-1-8で、子どもの成績の自己評価別に、好きな勉強方法をみてみよう。全般に成績自己評価の「上位」の子どもが「好

き」と答える割合が高い。特に、「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること」で成績自己評価の上位者が68.5%に対して下位者が41.9%、「個人（自分一人）で何かを考えたり調べたりする授業」で同じく61.2%対41.8%と大きな差が開いている。その他、「ドリルやプリントを使ってする授業」「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」「いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査」でも上位者と下位者で、10ポイ

図1-1-6 好きな学校の勉強方法



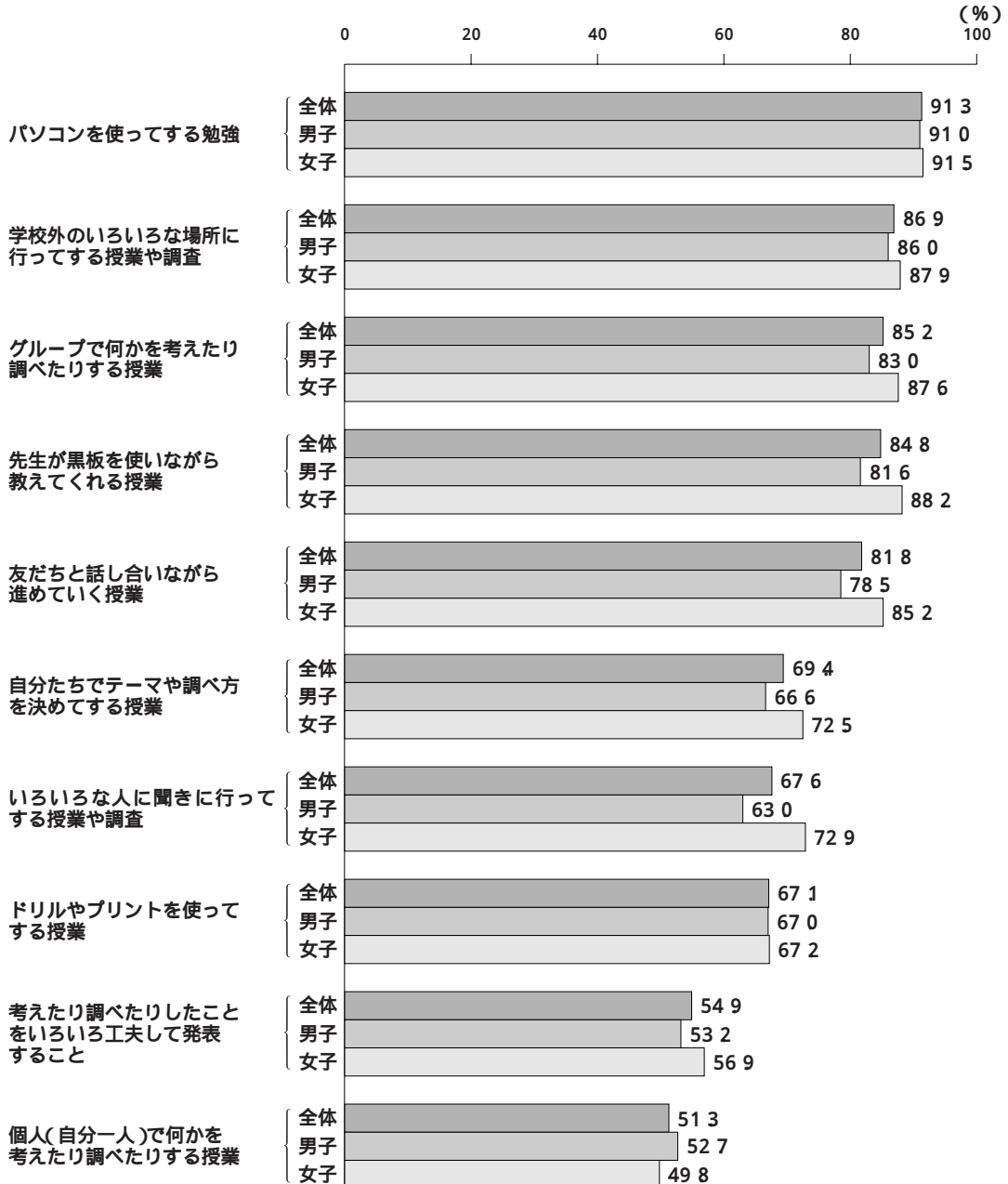
注) サンプル数は2402人。

ント以上の差になっている。

これに対して、成績の自己評価別の「好き」な割合の差が比較的小さい勉強方法は「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」「グループで何かを考えたり調べたりする授業」

「パソコンを使ってする勉強」「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」「友だちと話し合いながら進めていく授業」である。成績自己評価の下位者への配慮をしながらの勉強方法の構成・組み合わせが求められる。

図1-1-7 好きな学校の勉強方法（性別）



注1) 数値は「とても好き」と「好き」の合計。

注2) サンプル数は全体2402人、男子1238人、女子1154人。

表1-1-8 好きな学校の勉強方法（成績の自己評価別）

（％）

	上位（750）	中位（809）	下位（775）
パソコンを使ってする勉強	93.2	92.2	89.0
学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査	90.3	87.1	84.4
グループで何かを考えたり調べたりする授業	87.6	88.3	80.0
先生が黒板を使いながら教えてくれる授業	86.7	87.9	79.4
友だちと話し合いながら進めていく授業	84.0	85.3	76.3
自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業	76.5	69.8	63.1
いろいろな人に聞きに行っている授業や調査	73.2	69.2	60.6
ドリルやプリントを使ってする授業	74.0	69.1	58.8
考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること	68.5	54.6	41.9
個人（自分一人）で何かを考えたり調べたりする授業	61.2	50.8	41.8

注1) 成績の自己評価は、「あなたの今の成績はクラスの中でどのくらいですか」の項目に、「1（上のほう）～3」と回答した児童を「上位」、4（真ん中）を「中位」、5～7（下のほう）を「下位」とした。

注2) 数値は「とても好き」と「好き」の合計。

注3) ()内はサンプル数。

2. 家での学習の様子

① 家での学習時間

平日の家庭学習時間が2時間以上である割合がこの11年間で10ポイント以上も減少し20.8%になった。また、休日の家庭学習時間の2時間以上の割合も、第2回調査の16.1%と比べて4.4ポイント少ない11.7%となった。これに対して、平日のテレビ視聴時間の2時間以上は75%前後で11年間ほとんど変化がない。

Q

あなたはふだん（月曜日～金曜日）家に帰ってから何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。

日曜日は、家で何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。

ふだん（月曜日～金曜日）テレビを1日に何時間くらい見ますか。

表1-1-9は、「平日の家庭学習時間」「休日の家庭学習時間」「平日のテレビ視聴時間」がそれぞれ2時間以上である子どもの割合の11年間の変化をみたものである。この表でまず気づくのは、「平日の家庭学習時間」が2時間以上である割合が、11年間で31.3% 24.8% 20.8%と10ポイント以上も減少したことである。また、「休日の家庭学習時間」も、第2回調査の16.1%と比べて（第1回調査には該当項目なし）4.4ポイント少ない11.7%となっている。これに対して、平日のテレビ視聴時間は75%前後で11年間ほとんど変化がない。

さらに、表1-1-10で、第3回調査について、家庭での時間の過ごし方を詳細にみると、「平日の家庭学習時間」では、「ほとんどしない」が10.4%、「およそ30分」が29.9%

で合わせて40.3%となっている。小学生は家ではあまり勉強をしないことがわかる。また、「休日の家庭学習時間」は「ほとんどしない」が29.9%、「およそ30分」が28.6%であり、合計すると58.5%と6割弱に達する。学校完全週5日制が実施された後の小学生の学習時間をどのように確保できるのだろうか。最後に、「平日のテレビ視聴時間」は「3時間」が11.9%、「3時間30分」が6.8%、「それ以上」が32.4%もいる。これらを合計すると、51.1%と5割を超える子どもが1日に3時間以上もテレビを見ている。

性別には、「平日の家庭学習時間」「休日の家庭学習時間」ともに、「ほとんどしない」割合は、男子が女子よりも高くなっているのが特徴である。

表1-1-9 家で「2時間以上している」割合(時系列)

(%)

	第1回(2578)	第2回(2665)	第3回(2402)
平日の家庭学習	31.3	24.8	20.8
休日の家庭学習	—	16.1	11.7
平日のテレビ視聴	75.2	74.8	76.1

注1) —は該当項目なし。

注2) ()内はサンプル数。

表1-1-10 家での学習時間とテレビ視聴時間(性別)

(%)

	平日の家庭学習時間			休日の家庭学習時間			平日のテレビ視聴時間		
	全体 (2402)	男子 (1238)	女子 (1154)	全体	男子	女子	全体	男子	女子
ほとんどしない (ほとんど見ない)	10.4	13.9	6.7	29.9	34.4	25.0	2.0	1.5	2.5
およそ30分	29.9	31.3	28.2	28.6	25.8	31.6	3.8	2.9	4.7
1時間	23.5	23.6	23.7	20.4	20.4	20.4	8.6	7.9	9.4
1時間30分	13.8	11.5	16.3	7.7	5.5	10.1	7.9	7.2	8.8
2時間	7.3	5.8	8.9	4.5	4.3	4.7	15.9	17.3	14.6
2時間30分	3.9	3.1	4.8	1.9	1.6	2.2	9.1	9.9	8.3
3時間	3.7	2.9	4.7	1.7	1.5	2.0	11.9	11.4	12.4
3時間30分	1.9	1.6	2.3	0.7	0.8	0.6	6.8	5.7	8.1
それ以上	4.0	4.5	3.4	2.9	3.3	2.3	32.4	34.3	30.2

注) ()内はサンプル数。

②家での学習の様子

小学生の家庭での学習態度は、学校でのそれと同じように、まじめできちんとしていいる。家庭学習のけじめや計画性とかかわりの深い質問項目に対しては、「計画を立てて勉強する」の56.9%、「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」の77.6%など、5割弱から8割弱の小学生があてはまると答えている。

Q

あなたは家で勉強するとき、次のようなことをしますか。

表1-1-11は、家での勉強の様子についての回答を因子分析にかけて、析出された4つの因子に基づいて並べ直して示してある。結論から述べると、小学生の家庭での学習態度は、学校でのそれと同じように、まじめできちんとしていいる。

第1の因子は、「けじめ・計画性因子」でこの因子とかかわりの深い質問項目に対しては、5割弱から8割弱の小学生があてはまる（「あてはまる」と「まああてはまる」の合計。以下同じ）と答えている。つまり、小学生は比較的けじめと計画性のある家庭学習を行っている。あてはまると答えた割合がもっとも高かったのは、「何かを覚えるときには、読んで覚えるのではなく、書いて覚えるようにしている」の77.8%、第2位は「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」の77.6%であった。安易で受動的な学習スタイルが広がっているのではないかという懸念がある中で、とても高い値であった。第3位が「机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる」の63.7%、第4位は「自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる」の63.4%、第5位が「計画を立てて勉強する」の56.9%、第6位が「予習をしてから授業を受ける」の52.8%、第7位が「授業で習ったことは、その日のうちに復習する」の47.5%であった。小学生の家庭での学習習慣はきちんとしていいるといえるのではないだろうか。また、第8

位の「ラジオやテレビ、CDをつけっ放しで勉強する」子どもは45.9%であり、“ながら族”は5割を切っていた。

第2因子は「まじめ因子」であったが、この因子と関係の深い質問項目は、「出された宿題をきちんとしていく」が94.6%、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」が80.1%という高回答率が得られている。子どもたちの学習態度はまじめである。授業で習ったことをさらに発展して学習する「授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる」子どもも54.8%もいいる。

第3因子は「中途半端因子」であるが、小学生にはきちんとしてまじめであるが、中途半端に学習している部分もある。「中途半端因子」とかかわりの深い質問項目である「『勉強は学校だけですればいい』と思う」と答えた割合は32.9%であり、比較的少ないものの、「勉強していて問題の答えがわからないと、途中でやる気がなくなる」が53.3%いたり、「勉強していてわからないことがあると、家の人に聞く」に至っては91.9%もいいる。子どもたちは自分の力で勉強をやり通そうとしない。また、自分一人ではない場所での学習、すなわち「居間や食卓で勉強する」が60.7%もいいる。

第4因子は「がまん因子」である。「がまん因子」とかかわりの深い質問項目である「がまんして机に向かう」は53.8%であり、5割強

が勉強のためのがまんをしていると答えている。

性別には、ほとんどの質問項目で女子が男子よりも肯定的な家庭での学習をしている。ただし、男子のほうが肯定的であった項目に、「がまんして机に向かう」があり、女子が50.5%であるのに対して男子が57.1%であった。これは、男子はがまんしなければならな

いほど、家庭での学習を嫌がっているとみることができないのではないか。学校での学習態度だけでなく、家庭での学習態度も女子は男子よりも肯定的である。

続いて、第1回調査から第3回調査までの11年間の家庭学習の様子の変化をみてみよう。表1-1-12で、「けじめ・計画性因子」「ま

表1-1-11 家での学習の様子（性別）

(%)

	全体 (2402)	男子 (1238)	女子 (1154)
「けじめ・計画性因子」			
何かを覚えるときには、読んで覚えるのではなく、書いて覚えるようにしている	77.8	73.5	< 82.5
家族に言われなくても自分から進んで勉強する	77.6	71.6	<< 84.4
机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる	63.7	59.5	< 68.4
自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる	63.4	62.1	64.8
計画を立てて勉強する	56.9	52.7	< 61.4
予習をしてから授業を受ける	52.8	49.8	< 56.1
授業で習ったことは、その日のうちに復習する	47.5	42.3	<< 53.4
ラジオやテレビ、CDをつけっ放しで勉強する	45.9	43.8	48.0
「まじめ因子」			
出された宿題をきちんとやっていく	94.6	92.0	< 97.5
嫌いな科目の勉強も一生懸命する	80.1	77.3	< 83.3
授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる	54.8	51.0	< 58.9
「中途半端因子」			
勉強していてわからないことがあると、家の人に聞く	91.9	89.1	< 94.9
居間や食卓で勉強する	60.7	58.2	< 63.3
勉強していて問題の答えがわからないと、途中でやる気がなくなる	53.3	53.2	53.3
「勉強は学校だけですればいい」と思う	32.9	36.7	> 28.8
「がまん因子」			
がまんして机に向かう	53.8	57.1	> 50.5
<hr/>			
家庭教師についている	3.9	4.4	3.3
「進研ゼミ」のような通信教育を受けている	20.1	16.5	< 24.1
「ポピー」や「アクセル1」のような宅配の学習教材をとっている	16.0	15.6	16.5
書店などで売っている問題集・参考書を使って勉強する	33.6	30.5	< 37.3

注1) 数値は「あてはまる」と「まああてはまる」の合計。点線以下の4項目は「あてはまる」割合。

注2) << >>は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。

じめ因子」とかかわりの深い質問項目で肯定的な変化がみられた。すなわち、「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」(第1回67.8% 第2回76.4% 第3回77.6%)、「予習をしてから授業を受ける」(43.8% 49.4% 52.8%)、「授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる」(35.7% 55.9%

54.8%)、「出された宿題をきちんとやっていく」(90.1% 94.5% 94.6%)、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」(71.2% 78.5% 80.1%)などと、小学生ははじめや計画性を持ったまじめな家庭学習をする傾向を強めている。

表1-1-12 家での学習の様子(時系列)

(%)

	第1回 (2578)	第2回 (2665)	第3回 (2402)	11年間の 変化
「はじめ・計画性因子」				
何かを覚えるときには、読んで覚えるのではなく、書いて覚えるようにしている	—	—	77.8	
家族に言われなくても自分から進んで勉強する	67.8	76.4	77.6	
机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる	63.8	61.9	63.7	
自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる	62.3	66.4	63.4	
計画を立てて勉強する	57.0	56.1	56.9	
予習をしてから授業を受ける	43.8	49.4	52.8	
授業で習ったことは、その日のうちに復習する	46.0	50.6	47.5	
ラジオやテレビ、CDをつけっ放して勉強する	43.3	47.7	45.9	
「まじめ因子」				
出された宿題をきちんとやっていく	90.1	94.5	94.6	
嫌いな科目の勉強も一生懸命する	71.2	78.5	80.1	
授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる	35.7	55.9	54.8	
「中途半端因子」				
勉強していてわからないことがあると、家の人に聞く	—	91.2	91.9	
居間や食卓で勉強する	—	—	60.7	
勉強していて問題の答えがわからないと、途中でやる気がなくなる	—	57.4	53.3	
「勉強は学校だけですればいい」と思う	—	—	32.9	
「がまん因子」				
がまんして机に向かう	53.7	60.6	53.8	
<hr/>				
家庭教師についている	3.8	5.7	3.9	
「進研ゼミ」のような通信教育を受けている	18.1	24.5	20.1	
「ポピー」や「アクセル1」のような宅配の学習教材をとっている	24.9	17.9	16.0	
書店などで売っている問題集・参考書を使って勉強する	—	33.5	33.6	

注1) 数値は「あてはまる」と「まああてはまる」の合計。点線以下の4項目は「あてはまる」割合。

注2) —は該当項目なし。

注3) 「11年間の変化」は、第1回と第3回を比べて5%以上変化のあったもの。

注4) ()内はサンプル数。

③日常生活の中での「学習」

日常生活の中での「学習」で、もっとも多かったのは「読みたい本を本屋さんで探して買う」の69.7%、続いて「文学・小説・物語・童話などの本を読む」が68.6%、「家でペットや動物・植物の世話をする」が62.7%であった。



あなたは、ふだん（学校の授業や宿題以外で）次のことをどのくらいしますか。

学習は読み書きそろばんに限定されるものではないし、学校で行う勉強や学校の勉強を補う勉強に限定されるものでもない。日常生活の中で、新聞を読むことや植物を育てることなども、子どもの知識や技能、感性を育てる意義深い学習である。ここでは、小学生は日常生活の中で広い意味での「学習」をどのくらいしているのかをみてみたい。

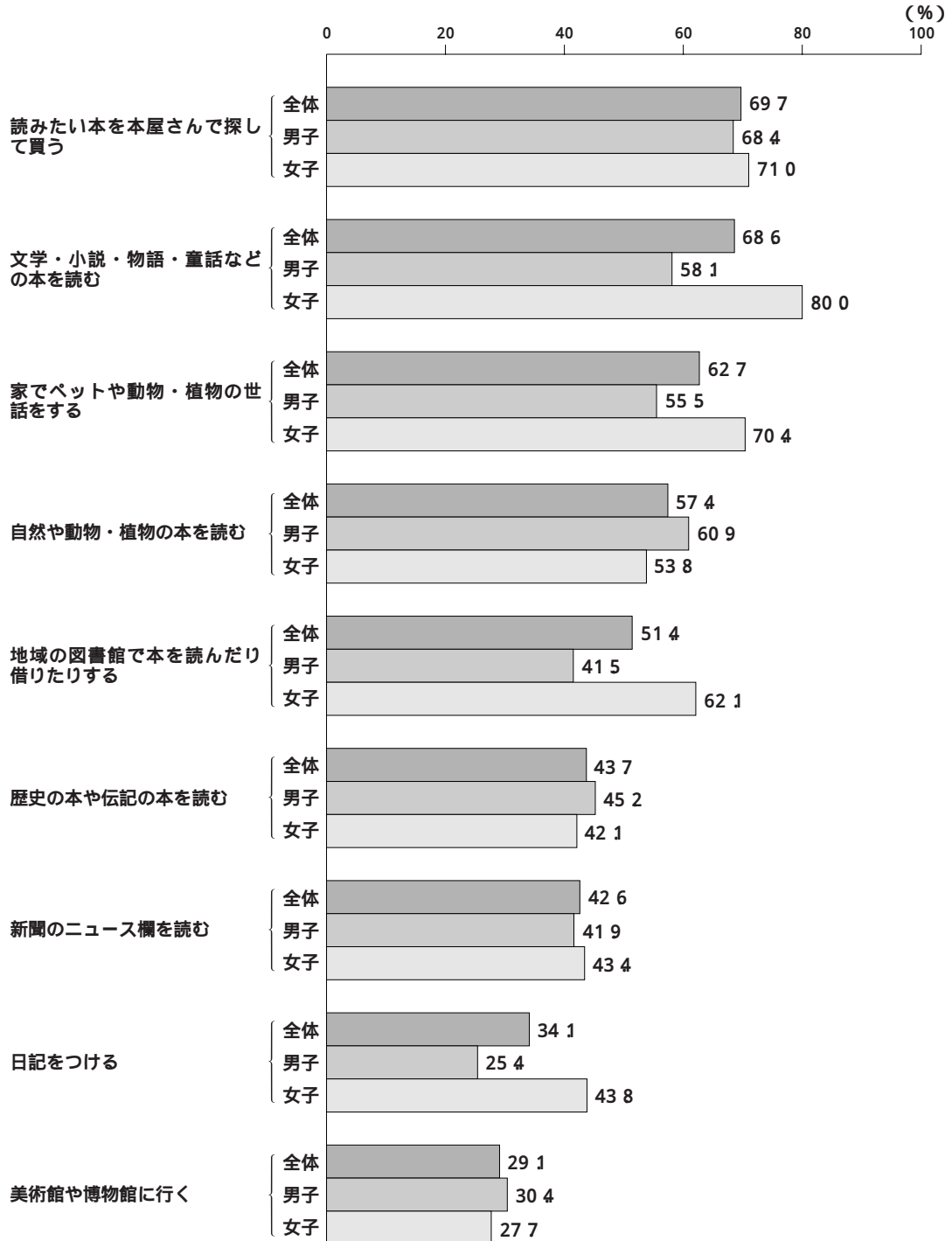
図1-1-8で、体験率（「よくする」と「時々する」の合計）がもっとも高かったのは「読みたい本を本屋さんで探して買う」の69.7%であった。続いて、「文学・小説・物語・童話などの本を読む」が68.6%、「家でペットや動物・植物の世話をする」が62.7%で、ここまでがベスト・スリーであり6割以上の体験率であった。これに対してもっとも少ないのは、「美術館や博物館に行く」の29.1%で、続いて、「日記をつける」が34.1%、「新聞のニュース欄を読む」が42.6%、「歴史の本や伝記の本を読む」が43.7%で、ここまでが5割未満の体験率であった。ちなみに、「自然や動物・植物の本を読む」は57.4%、「地

域の図書館で本を読んだり借りたりする」は51.4%と5割台であった。

また、同じ図で、「文学・小説・物語・童話などの本を読む」（女子80.0%対男子58.1%）、「家でペットや動物・植物の世話をする」（女子70.4%対男子55.5%）、「日記をつける」（女子43.8%対男子25.4%）、「地域の図書館で本を読んだり借りたりする」（女子62.1%対男子41.5%）など、動植物の世話や文学、日記、図書館の利用の項目で女子のほうが多く「学習」行動をしていた。反対に男子のほうが多かったのは、「自然や動物・植物の本を読む」で男子の60.9%に対して女子は53.8%であった。

表1-1-13で第1回調査と第3回調査を比較すると、「自然や動物・植物の本を読む」（第1回50.8% 第3回57.4%）、「美術館や博物館に行く」（23.2% 29.1%）、「日記をつける」（28.1% 34.1%）、「地域の図書館で本を読んだり借りたりする」（43.5% 51.4%）などが増加しており、日常生活の中での「学習」は豊かになる方向にある。

図1-1-8 日常生活の中での「学習」(性別)



注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。

注2) サンプル数は全体2402人、男子1238人、女子1154人。

表1 - 1 - 13 日常生活の中での「学習」(時系列)

(%)

	第1回(2578)	第3回(2402)
読みたい本を本屋さんで探して買う	75.0	69.7
文学・小説・物語・童話などの本を読む	71.7	68.6
家でペットや動物・植物の世話をする	60.5	62.7
自然や動物・植物の本を読む	50.8	57.4
地域の図書館で本を読んだり借りたりする	43.5	51.4
歴史の本や伝記の本を読む	47.4	43.7
新聞のニュース欄を読む	40.9	42.6
日記をつける	28.1	34.1
美術館や博物館に行く	23.2	29.1

注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。

注2) 第2回は該当項目なし。

注3) ()内はサンプル数。

④ 家庭環境

「お母さんは私の成績をよく知っている」(第1回85.8% 第2回77.9% 第3回77.4%)をはじめ、「お父さんは私の成績をよく知っている」「ほとんど毎日、家の人は私に『勉強しなさい』と言う」などが減少しており、親はかつてほど子どもの勉強を管理していない。

Q

あなたの家のことについてお聞きます。

表1-1-14で小学生の家庭学習環境をみると、「自分一人の勉強部屋を持っている」のは39.1%。男子は35.2%、女子は43.5%と女子のほうが高い割合である。「ほとんど毎日、家の人は私に『勉強しなさい』と言う」のは40.4%。男子は46.5%で女子の33.6%よりも12.9ポイントも高い。「この1か月の間に、お父さんやお母さんに勉強をみてもらったことがある」割合は61.9%と6割に達しており、親に勉強をみてもらう割合は高い。親

が自分の成績を知っているかという質問に対しては、母親では77.4%に対して父親は54.2%と大きく下がる。また、広い意味での学習環境として、「お父さんやお母さんとよく話をする」は84.3%とおよそ8割、「家には本(マンガや雑誌以外)がたくさんある」は63.7%、「家の人に博物館や美術館に連れていってもらったことがある」は55.3%であった。

表1-1-14 家庭の学習環境(性別)

(%)

	全体(2263)	男子(1177)	女子(1077)
家には本(マンガや雑誌以外)がたくさんある	63.7	59.6	< 68.1
自分一人の勉強部屋を持っている	39.1	35.2	< 43.5
ほとんど毎日、家の人は私に「勉強しなさい」と言う	40.4	46.5	≫ 33.6
この1か月の間に、お父さんやお母さんに勉強をみてもらったことがある	61.9	59.3	< 65.1
お父さんやお母さんとよく話をする	84.3	81.0	< 87.9
お母さんは私の成績をよく知っている	77.4	73.2	< 82.4
お父さんは私の成績をよく知っている	54.2	52.6	56.1
家の人に博物館や美術館に連れていってもらったことがある	55.3	53.2	57.8

注1) 複数回答。

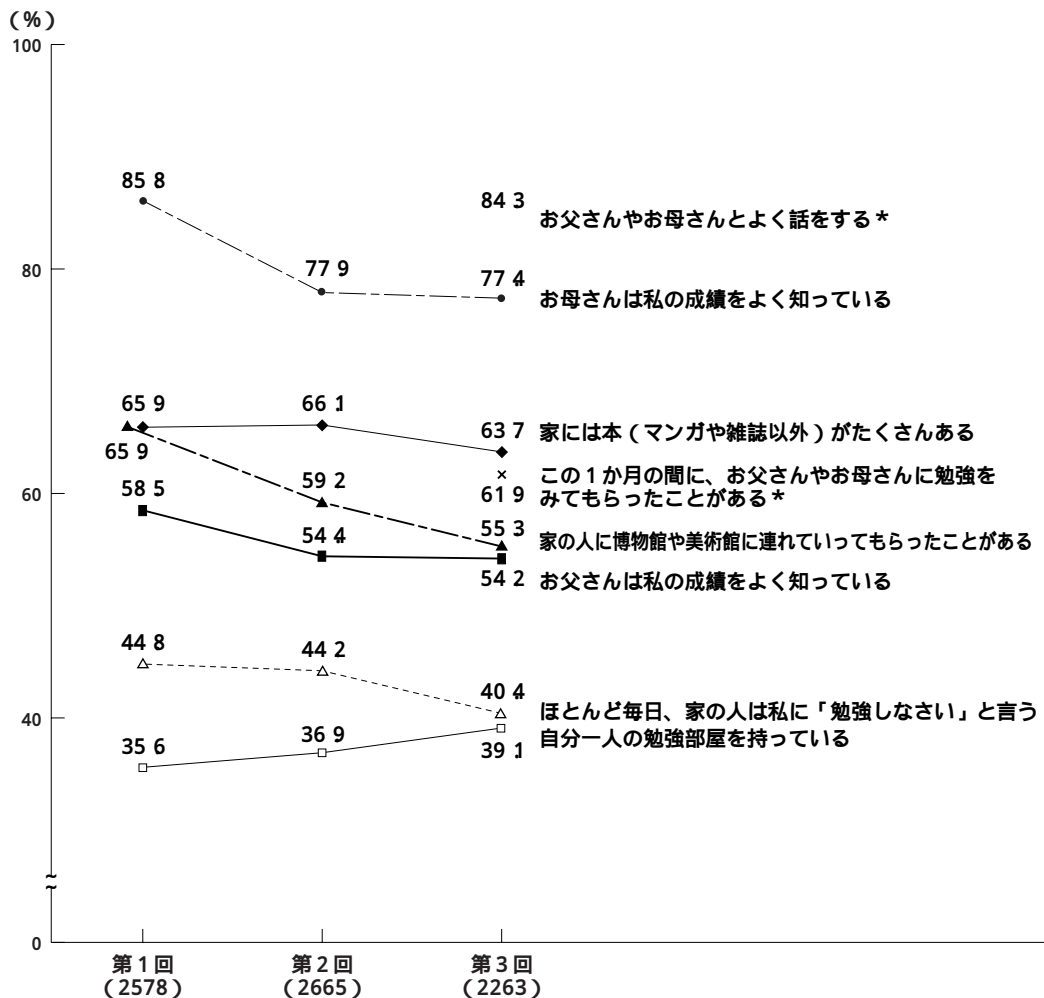
注2) <>は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。回答を拒否した139名を除外して計算した。

さらに、図1-1-9で、11年間の家庭の学習環境の変化をみると、子どもの勉強に対する親のかかわりに関して、「お母さんは私の成績をよく知っている」(第1回85.8% 第2回77.9% 第3回77.4%)が8.4ポイントも減少し、「お父さんは私の成績をよく知っている」(58.5% 54.4% 54.2%)も4.3ポイント減少している。さらに、「ほとんど毎日、家の人には私に『勉強しなさい』と言う」(44.8% 44.2% 40.4%)も4.4ポイント減

少しており、親はかつてほど子どもの勉強を管理しないようになりつつある。また、「家には本(マンガや雑誌以外)がたくさんある」(65.9% 66.1% 63.7%)が2.2ポイント減少し、「家の人に博物館や美術館に連れていってもらったことがある」(65.9% 59.2% 55.3%)も10.6ポイント減少している。本調査のとらえた範囲のことであるが、狭い意味だけでなく広い意味での家庭の学習環境も低下している。

図1-1-9 家庭の学習環境(時系列)



注1) 複数回答。

注2) *は第1回、第2回に該当項目なし。

注3) ()内はサンプル数。第3回は、回答を拒否した139名を除外して計算した。

3. 学校外の学習機会の利用

① 学習塾の利用

第1回調査から第3回調査まで、いずれの調査時点でもおよそ3分の1の子どもが「学習塾」に通っていた。第2回調査と第3回調査の比較では、「家庭教師」「通信教育」「宅配教材」ともに減少している。大都市では45.8%が「学習塾」に通い、しかも、20.7%が「進学塾」に通っている。

Q

あなたは今、学習塾に行っていますか（そろばん、習字などの塾は除きます。「公文」のような自習教室は含めます）。

[学習塾に行っている人にお聞きします]

週に何日行っていますか。

あなたの行っているのは、どんな学習塾ですか。

学習塾では1回に、平均何時間くらい勉強しますか。

あなたが行っている学習塾は、1クラス何人ですか。

あなたは家で勉強するとき、次のようなことをしますか。

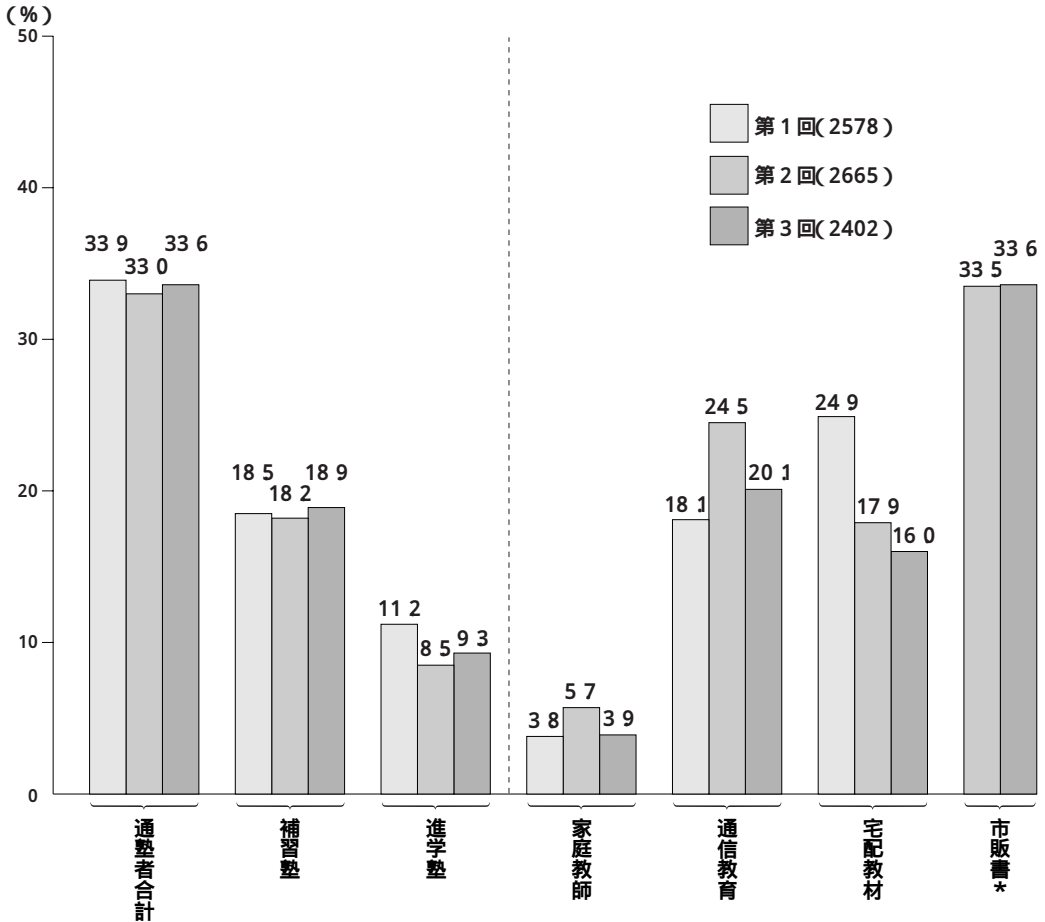
情操教育、スポーツ、学校の補習、受験勉強と小学生の放課後は忙しい。ここでは、いわゆる習い事やおけいこ以外の、学校の勉強と中学受験の勉強に絞って、子どもたちがどこで、あるいは、どのような学習機会を使って学習しているのかをみてみよう。

まず、図1-1-10は、小学生に学校外の「勉強の様子」を尋ねた結果である。第1回調査から第3回調査まで、いずれの調査時点でもおよそ3分の1の子どもが「学習塾」に通っていた。塾の中味もほぼ一定で、およそ2割弱が「補習塾」、1割前後が「進学塾」であった。さらに、「家庭教師」と「通信教育」はそれぞれ3.8%、5.7%、3.9%、18.1%、24.5%、20.1%と第1回調査から第2回調査にかけていったん増加して第2回調査から第3回調査にかけては反転して減少している。「宅配教材」は24.9%、17.9%、16.0%と減少し続けている。このようにして、第2回調査と第3回調査の比較では、「家庭教師」「通信教育」「宅配教材」ともに減少している。「市

販書（書店などで売っている問題集・参考書）」による勉強は第2回調査以降に尋ねているが、第2回調査、第3回調査ともにおおよそ3分の1が「市販書」を利用して勉強している。

表1-1-15で、地域別に「勉強の様子」が大きく異なることがわかる。大都市では45.8%が「学習塾」に通い、しかも5分の1の20.7%が「進学塾」に通っている。これに対して地方都市の通塾率は34.2%で大都市よりも11.6ポイント少ないが、「補習塾」では23.7%と大都市の「補習塾」通塾率よりも5ポイント近く高くなっている。また、郡部の通塾率は20.8%と大都市の半分以下で、「進学塾」に至っては1.5%とゼロに近い。また、その他の学習機会については、地方都市で興味深い特徴があった。地方都市では、「通信教育」の利用率が他の地域よりおよそ6ポイント高く24.4%、「宅配教材」はおよそ10ポイント高く22.0%、「市販書」もおよそ15ポイント高く44.2%が利用している。

図1-1-10 学校外の学習機会の利用（時系列）



注1)「通塾者合計」は、「学習塾に行っていますか」の項目に「行っている」と回答した児童で、「補習塾」「進学塾」「その他」「無答・不明」からなる。

注2) *は第1回に該当項目なし。

注3) ()内はサンプル数。

表1-1-15 学校外の学習機会の利用（地域別）

	(%)									
	補習塾	進学塾	その他	無答・不明	通塾者合計	家庭教師	通信教育	宅配教材	市販書	
全 体 (2402)	18.9	9.3	4.2	1.1	33.6	3.9	20.1	16.0	33.6	
大 都 市 (849)	19.1	20.7	4.2	1.8	45.8	5.1	17.9	12.7	30.4	
地方都市 (708)	23.7	4.9	4.2	1.3	34.2	4.4	24.4	22.0	44.2	
郡 部 (845)	14.8	1.5	4.1	0.4	20.8	2.2	18.8	14.2	28.0	

注) ()内はサンプル数。

次に、表1-1-16で、「補習塾」と「進学塾」との違いに焦点を当てて、通塾の様子をみてみよう。通塾日数は、「補習塾」では「1日」が14.9%、「2日」が67.7%、合計で82.6%である。そして、「3日以上」はわずか16.5%であった。これに対して「進学塾」では「1日」が7.1%、「2日」が21.9%、合計で29.0%。「3日以上」は69.7%であった。

「進学塾」のほうが圧倒的に通塾日数が多い。続いて、塾での勉強時間では、「補習塾」では「1時間くらい」がもっとも多く54.1%、続いて「2時間くらい」が32.3%であるのが、「進学塾」では「2時間くらい」が35.3%、「3時間くらい」が34.8%である。「3時間以上」の割合を比べると「補習塾」では6.4%に対して「進学塾」では53.6%であり、「進学塾」

表1-1-16 通塾状況（塾のタイプ別）

通塾日数（週あたり）								無答・不明	3日以上
	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日		
通塾者合計（807）	15.5	50.7	20.1	7.2	2.7	0.9	0.5	2.5	31.4
補習塾（455）	14.9	67.7	12.1	2.6	0.9	0.7	0.2	0.9	16.5
進学塾（224）	7.1	21.9	42.9	17.9	6.7	0.9	1.3	1.3	69.7
その他（101）	37.6	46.5	8.9	4.0	1.0	2.0	0.0	0.0	15.9

塾の勉強時間（1回あたりの平均）						無答・不明	3時間以上
	30分くらい	1時間くらい	2時間くらい	3時間くらい	4時間以上		
通塾者合計	4.6	40.4	31.0	13.0	6.8	4.2	19.8
補習塾	5.3	54.1	32.3	4.4	2.0	2.0	6.4
進学塾	0.9	9.4	35.3	34.8	18.8	0.9	53.6
その他	9.9	55.4	22.8	4.0	3.0	5.0	7.0

1クラスの生徒数	（％）			
	1人	2～4人	5人以上	無答・不明
通塾者合計	6.9	17.6	70.1	5.3
補習塾	8.6	22.0	64.8	4.6
進学塾	5.4	7.1	87.1	0.4
その他	4.0	23.8	69.3	3.0

注) ()内はサンプル数。

では「3時間以上」が過半数を占める。塾のクラスサイズは、「進学塾」のほうが大きく、「5人以上」が87.1%と9割近くを占めている。「進学塾」は「補習塾」よりも、通塾日数、勉強時間、クラスサイズの点でハードな勉強をしている。

最後に、表1-1-17で、塾での勉強の様子を時系列比較すると、「進学塾」で第2回調査と第3回調査で、週に「3日以上」通塾する割合と1回につき「3時間以上」勉強する割合が減少していた。「進学塾」がやや厳しさを弱めている。

表1-1-17 通塾状況（時系列）

(%)

	週に「3日以上」の通塾		1回「3時間以上」の勉強	
	第2回 (880)	第3回 (807)	第2回	第3回
通塾者合計	32.1	31.4	20.8	19.8
補習塾	16.9	16.5	4.9	6.4
進学塾	74.9	69.7	63.4	53.6
その他	23.5	15.9	10.6	7.0

注)()内はサンプル数。

② 習い事・おけいこ事

もっとも多く行われている習い事・おけいこ事は、「スポーツ」47.4%である。これは男子に多い。また、「音楽」は大都市に多く、「習字」は地方都市、「そろばん」は郡部に多い。

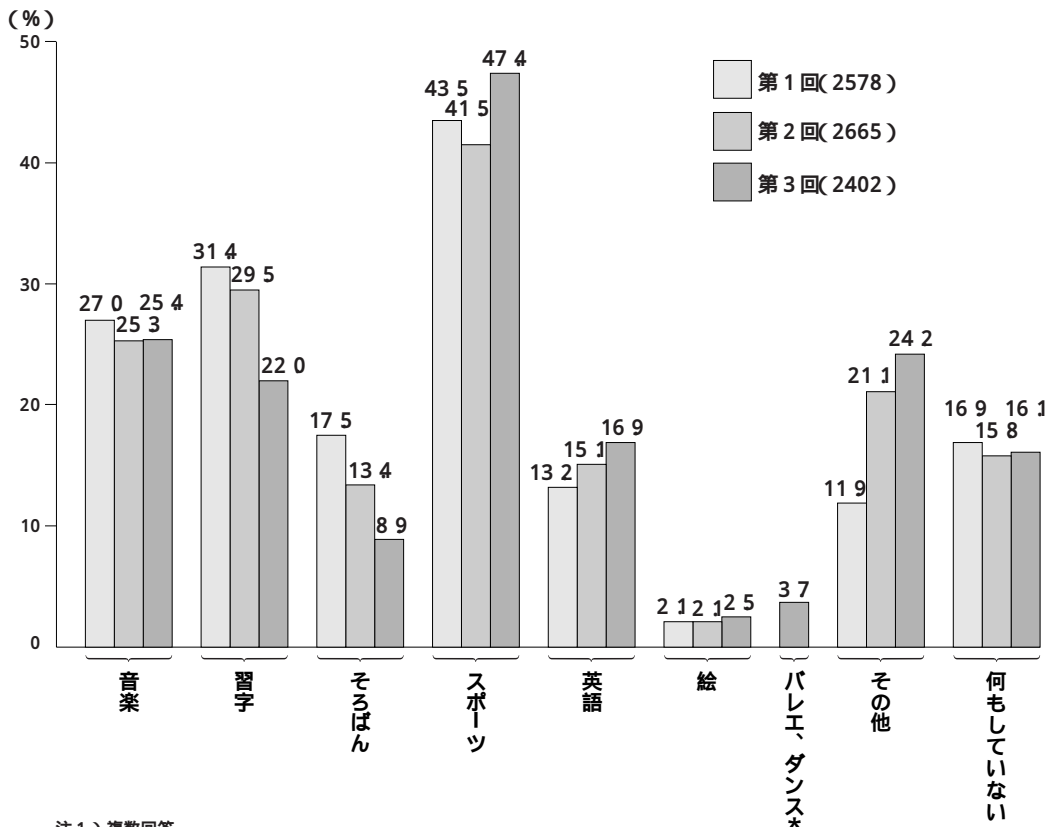


あなたは、おけいこや学校外のクラブに行っていますか。

図1-1-11では、もっとも多く行われている習い事・おけいこ事は「スポーツ（水泳、剣道、柔道、体操、野球、サッカーなど）」の47.4%で、続いて、「音楽（ピアノ、バイオリン、エレクトーンなど）」の25.4%、「習字」の22.0%となっている。また、この11年

間で減少したのは、「習字」（第1回31.4% 第2回29.5% 第3回22.0%）と「そろばん」（17.5% 13.4% 8.9%）で、増加したのは「スポーツ」（43.5% 41.5% 47.4%）と「英語」（13.2% 15.1% 16.9%）であった。

図1-1-11 習い事・おけいこ事（時系列）



注1) 複数回答。

注2) *は第1回、第2回に該当項目なし。

注3) ()内はサンプル数。

さらに、表1-1-18で、性別および地域別に習い事・おけいご事の利用率をみると、女子のほうが多いのが、「音楽（ピアノ、バイオリン、エレクトーンなど）」（男子10.5%対女子41.5%）と「習字」（15.3%対29.5%）、「英語」（14.8%対19.3%）であり、男子のほうが多いのが「スポーツ（水泳、剣道、柔道、

体操、野球、サッカーなど）」（60.7%対33.0%）である。また、地域別では、大都市で多かったのが「音楽」「スポーツ」であり、地方都市では「習字」および「スポーツ」「英語」の利用率が高い。そして、郡部では「そろばん」と「何もしていない」が多くなっている。

表1-1-18 習い事・おけいご事（性別・地域別）

(%)

	音楽	習字	そろばん	スポーツ	英語	絵	バレエ、ダンス	その他	何もしていない
全 体 (2402)	25.4	22.0	8.9	47.4	16.9	2.5	3.7	24.2	16.1
男 子 (1238)	10.5	15.3	8.3	60.7	14.8	1.6	0.7	21.4	17.7
女 子 (1154)	41.5	29.5	9.4	33.0	19.3	3.6	7.0	27.3	14.3
大 都 市 (849)	<u>29.1</u>	16.1	5.3	48.8	16.3	<u>4.4</u>	<u>4.9</u>	<u>34.2</u>	12.8
地方都市 (708)	26.1	<u>29.8</u>	7.8	<u>51.4</u>	<u>21.9</u>	1.7	4.5	21.5	13.1
郡 部 (845)	21.1	21.4	<u>13.5</u>	42.6	13.4	1.4	1.9	16.4	<u>21.8</u>

注1) 複数回答。

注2) ♠ ♣ は男女で10%以上、△ ▽ は5%以上差があるもの。

注3) 下線は最大値。

注4) () 内はサンプル数。

③メディアの利用

およそ8割の子どもが学校でパソコンを使い、5割強の子どもが家でパソコンを使う。インターネット利用率も学校が4割、家庭が3割強である。パソコンを含めたニュー・メディアを利用した学習教材の利用率の累計は63.0%から89.8%へと増えている。



パソコンやテレビなどのメディア（機械）についてお聞きします。

パソコンやパソコン通信、パソコンを利用した学習システムの利用が急増している。

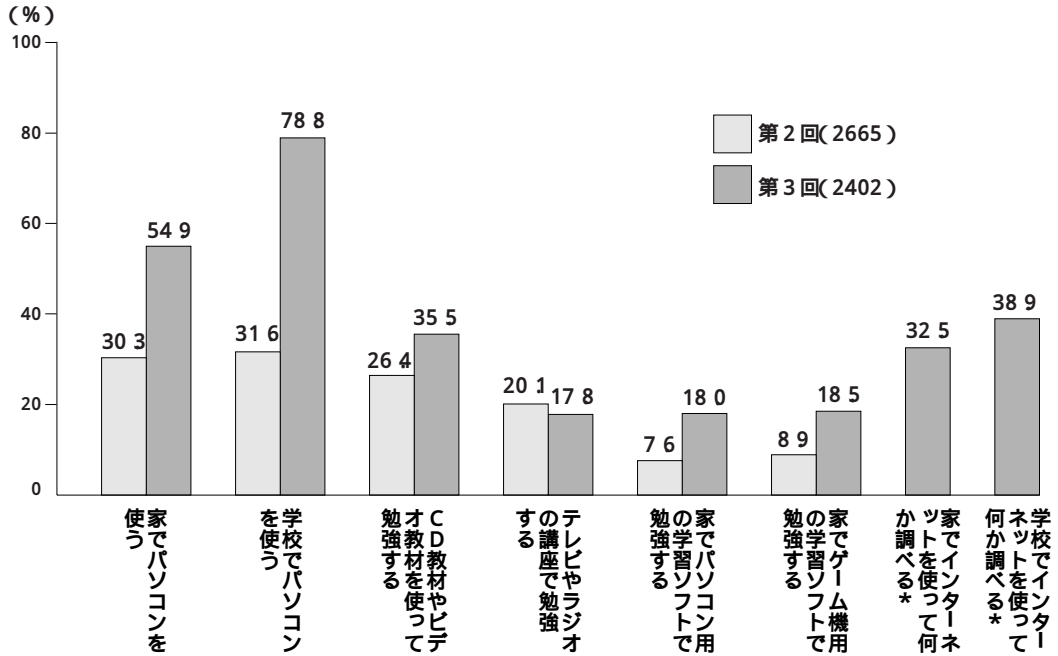
図1-1-12で第3回調査の結果をみると、およそ8割の子どもが「学校でパソコンを使う」、5割強の子どもが「家でパソコンを使う」に「よくある」「時々ある」と答えている。第2回調査の割合がそれぞれおよそ3割であったことを考えると、非常に急激なパソコン利用の普及である。

さらに、「学校でインターネットを使って何か調べる」がおよそ4割、「家でインターネットを使って何か調べる」も3割強であり、インターネット利用も急速に普及しつつある。こうした中で、従来からのメディアである「CD教材やビデオ教材を使って勉強する」

(第2回26.4% 第3回35.5%)や「テレビやラジオの講座で勉強する」(20.1% 17.8%)の他に、パソコンやゲーム機を使っての学習が「家でパソコン用の学習ソフトで勉強する」(7.6% 18.0%)、「家でゲーム機用の学習ソフトで勉強する」(8.9% 18.5%)で急増している。なお、これら4つのニュー・メディアを利用した学習教材の利用率の累計は63.0%から89.8%へと増えている。

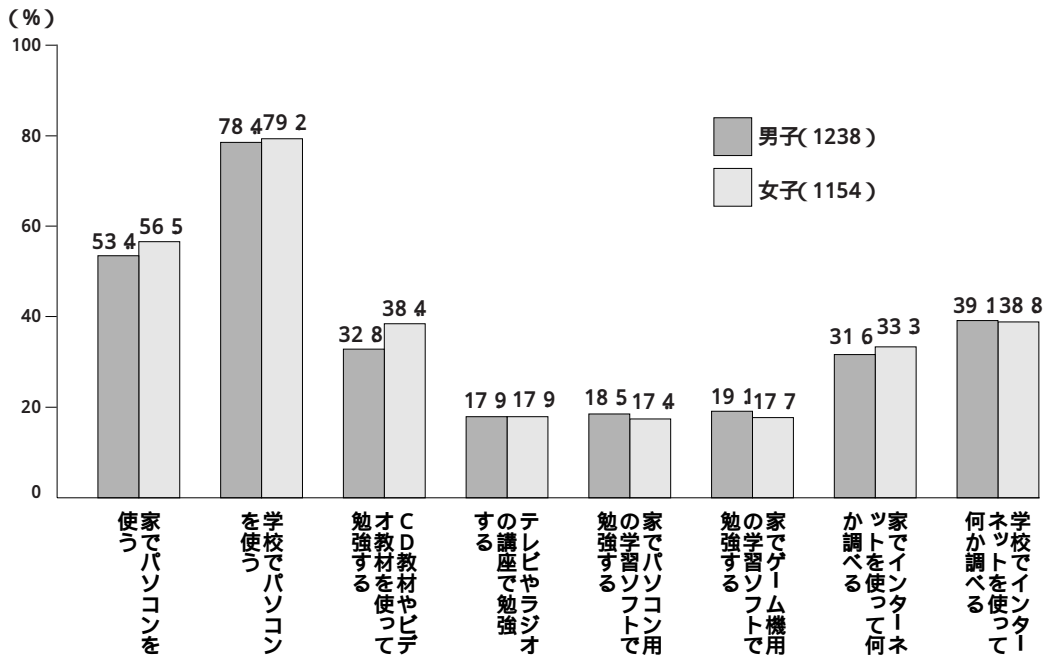
図1-1-13で、性別にニュー・メディアの利用率をみると、男女でほとんど差がないことがわかる。唯一大きな差があるのは、「CD教材やビデオ教材を使って勉強する」で男子が32.8%であるのに対して、女子は38.4%と高くなっている。

図1-1-12 メディアの利用（時系列）



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
 注2) 第1回は該当項目なし。また、*は第2回に該当項目なし。
 注3) ()内はサンプル数。

図1-1-13 メディアの利用（性別）



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
 注2) ()内はサンプル数。

第2節 小学生の学習観・成績観

1. 成績観

①成績の自己評価

第1回、第2回、第3回調査ともに、自分の成績が「上位」と答えた割合がおよそ3割、「中位」が33～34%、そして「下位」が32～36%とほぼ均等な値で安定している。算数は男子が、国語は女子が自分の成績を高く評価する傾向がある。

Q

あなたの今の成績は、クラスの中でどのくらいですか。
次の教科（算数、国語）の今の成績は、クラスの中でどのくらいですか。
あなたはどのくらいの成績がとれたらいいと思いますか。
今の成績は別として、あなたがうんとがんばれば、どのくらいの成績がとれると思いますか。

図1-2-1は、時系列および性別に総合的な成績を自己評価させた結果をみたものである。この図で第1回調査から第3回調査まで、いずれの調査も、自分の成績が「上位（7段階で『1』『2』『3』）」と答えた割合がおよそ3割、「中位（7段階の『4』）」と答えた割合が33～34%、そして「下位（7段階の『5』『6』『7』）」と答えた割合が32～36%と比較的安定している。このように、総合成績の自己認識は偏りが少なく均等に分布しており、学級内に成績を自己認識させる機会が用意されていることが推測される。同じ図で、性別には、第3回調査の比較では男子の成績自己評価が女子の成績自己評価を上回っており、特に上位では、男子34.7%対女子27.6%と7.1ポイントの開きになっている。

表1-2-1で、「算数と国語の成績の自己評価」では、国語は、「上位」「中位」「下位」の割合が34.9%、32.6%、30.6%となっ

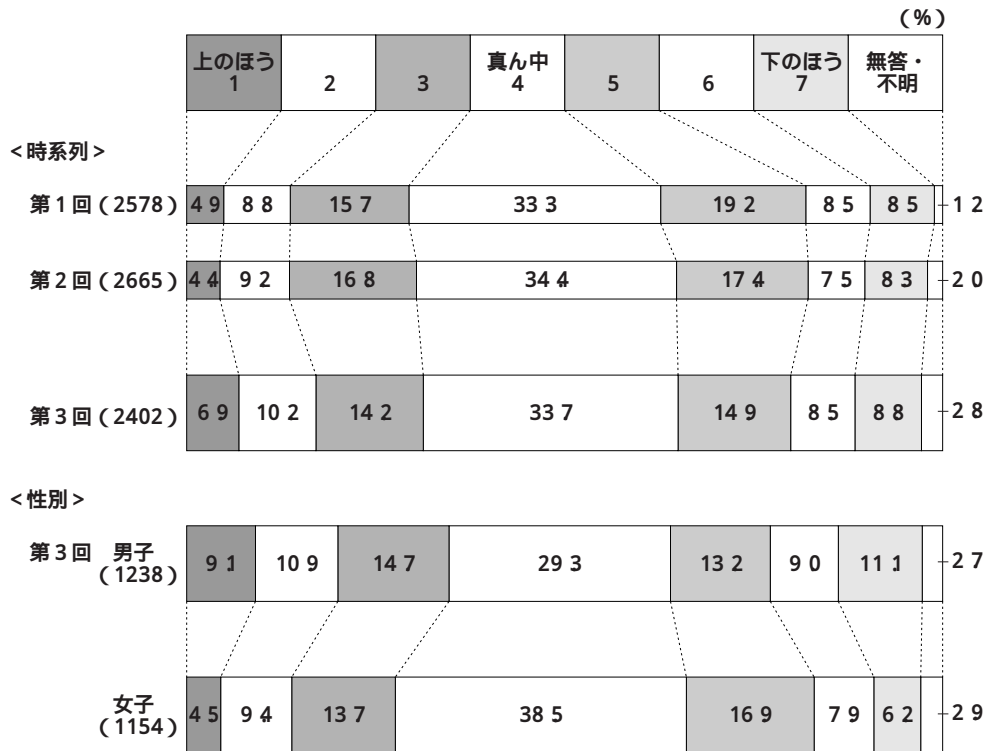
ており、きれいに3等分している。これに対して算数は、同じく、37.2%、25.9%、35.0%となっており、「上位」と「下位」に2極分化している。性別には、男子の場合は国語も算数もともに2極分化の傾向がみられる（「中位」の割合が国語28.1%、算数23.0%と少ない）が、女子は男子と比べて2極分化の傾向が弱い。また、算数では男子が「上位」と答えた割合が多く、国語では女子が多い。つまり、算数は男子がよい成績をとり、国語は女子がよい成績をとっていると回答する傾向がある。

最後に図1-2-2で、「とりたい成績」と「がんばればとれると思う成績」を尋ねた結果、「とりたい成績」は、7段階のうち「1」「2」「3」を合計するといずれの調査時点でも85%前後に達する。また、第2回調査に「1」の割合が45.9%まで下がったが、第3回調査には52.8%まで増えている。子どもた

ちの成績に関する肯定的な希望が回復している。さらに、「がんばればとれると思う成績」は、7段階のうち「1」「2」「3」を合計し

た割合は、いずれの調査時点でも8割強で、こちらはあまり変動がなかった。

図1-2-1 総合成績の自己評価（時系列・性別）



注) ()内はサンプル数。

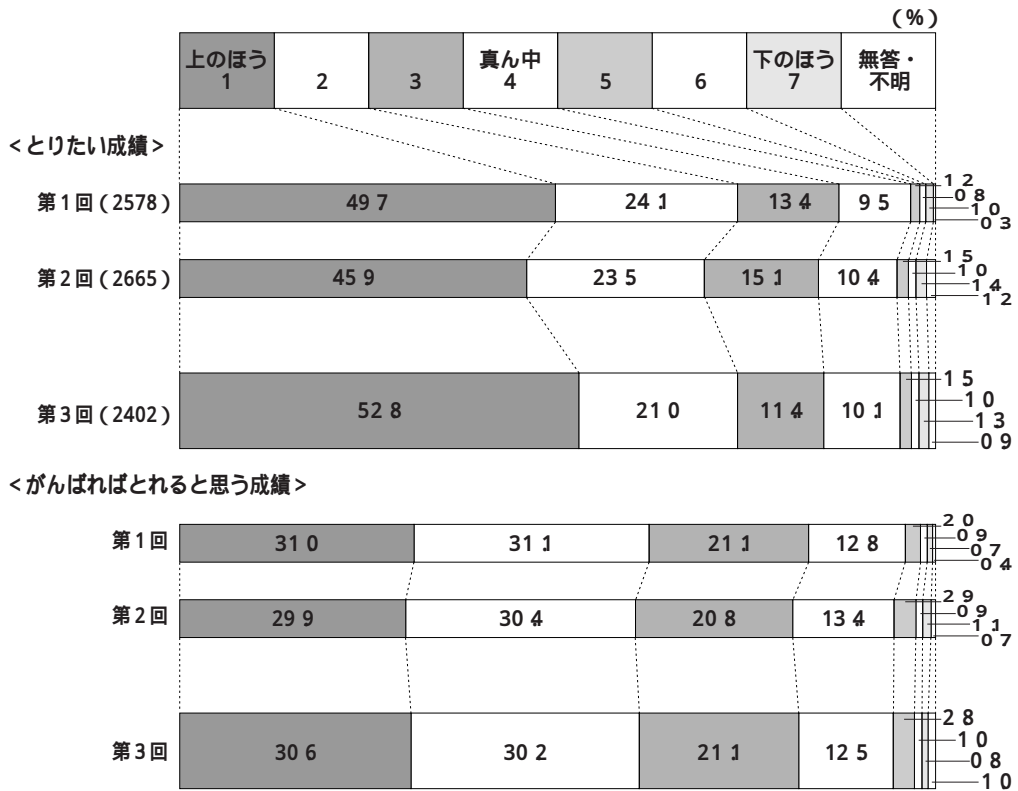
表1-2-1 算数と国語の成績の自己評価（性別）

(%)

	算 数			国 語		
	全体 (2402)	男子 (1238)	女子 (1154)	全体	男子	女子
1(上のほう)	11.5	15.4	7.3	7.4	6.9	7.9
2	11.1	13.2	8.8	10.6	10.1	11.1
3	14.6	16.1	13.1	16.9	16.0	17.9
4(真ん中)	25.9	23.0	29.1	32.6	28.1	37.3
5	15.2	11.0	19.9	15.3	16.6	14.0
6	9.6	8.4	10.9	8.1	9.9	6.0
7(下のほう)	10.2	10.8	9.3	7.2	10.1	4.0

注) ()内はサンプル数。

図1-2-2 とりたい成績・がんばればとれると思う成績（時系列）



注) ()内はサンプル数。

②成績観・学力観

子どもたちは成績や学力に関してアンビバレントな考えを持っていて、「将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい」が62.3%いるかと思うと、他方では「できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい」も67.0%いる。

Q

あなたは、次のように思うことがありますか。

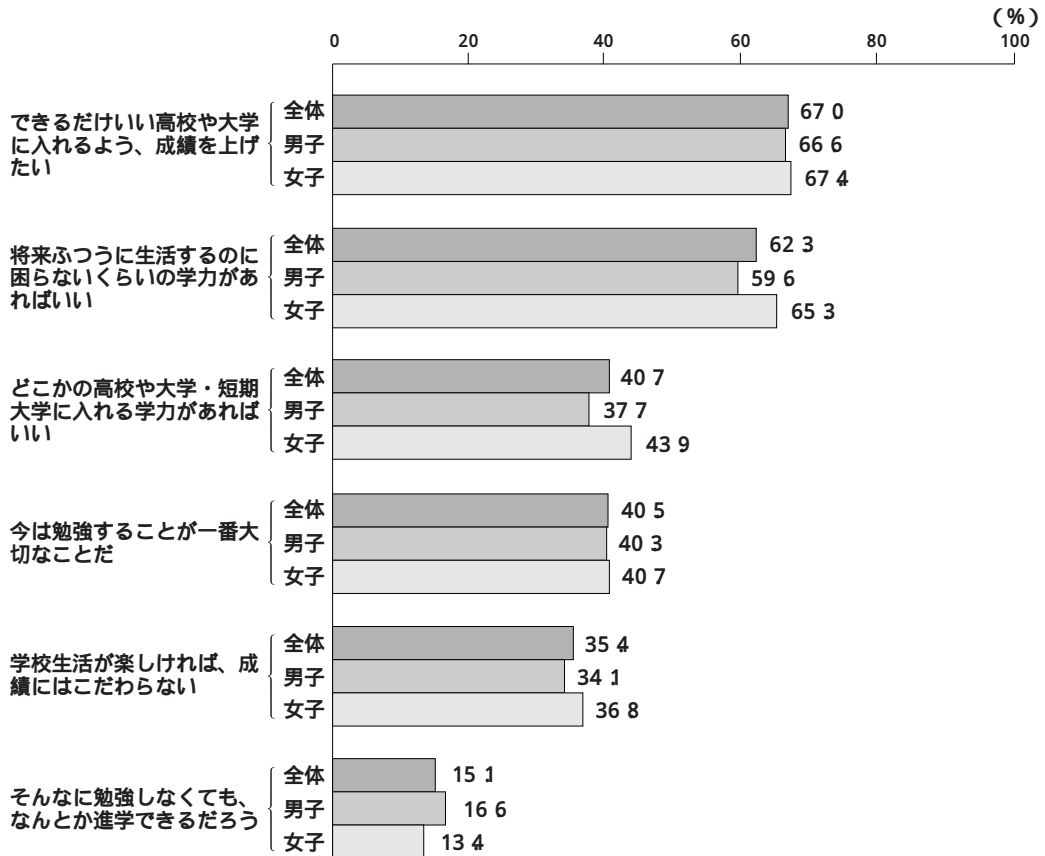
子どもたちは成績や学力に関してアンビバレントな考えを持っている（図1-2-3）。一方では「将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい」が62.3%いるかと思うと、他方では「できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい」も67.0%いる。また、「学校生活を楽しければ、成績にはこだわらない」が35.4%と少数派であるが、それでは成績にこだわるかかというと、「今は勉強することが一番大切なことだ」という意見も40.5%と少数派だ。なお、将来の見通しと関連しては、「そんなに勉強しなくても、なんとか進学できるだろう」が15.1%と少数派であり、勉強が進学にとって不可欠であると認識している。

性別に成績観・学力観をみると、「将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい」が男子59.6%対女子65.3%、「ど

こかの高校や大学・短期大学に入れる学力があればいい」が男子37.7%対女子43.9%の2項目で女子のほうが肯定的である。つまり、女子は学力や成績で社会的・経済的な上昇移動をはかろうとはしていないことが推測される。

次に、表1-2-2で、成績の自己評価別に成績観・学力観をみると、成績自己評価の下位者ほど「将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい」「学校生活を楽しければ、成績にはこだわらない」「そんなに勉強しなくても、なんとか進学できるだろう」と答え、成績自己評価の上位者ほど「できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい」と答えている。成績自己評価の下位者は、小学生の段階ですでに成績競争、学歴競争から離脱する傾向を見せはじめている。

図1 - 2 - 3 成績観・学力観（性別）



注1) 複数回答。

注2) サンプル数は全体2402人、男子1238人、女子1154人。

表1 - 2 - 2 成績観・学力観（成績の自己評価別）

	(%)		
	上位(750)	中位(809)	下位(775)
できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい	73.7	67.6	60.5
将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい	56.1	63.0	68.5
どこかの高校や大学・短期大学に入れる学力があればいい	38.3	43.9	40.0
今は勉強することが一番大切なことだ	39.9	38.4	42.8
学校生活を楽しめれば、成績にはこだわらない	29.7	34.0	42.5
そんなに勉強しなくても、なんとか進学できるだろう	10.5	13.5	21.3

注1) 複数回答。

注2) 成績の自己評価は、「あなたの今の成績はクラスの中でどのくらいですか」の項目に、「1(上のほう)~3」と回答した児童を「上位」、「4(真ん中)」を「中位」、「5~7(下のほう)」を「下位」とした。

注3) ()内はサンプル数。

2 . 学習していて感じること

不思議さやすばらしさを感じることは、「生き物や自然を『すばらしい』とか『ふしぎだな』と感じる」が81.6%でもっとも高く、好きだったり意欲があるかについては、「自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいなと思う」が71.1%でもっとも高い。



あなたは勉強していて、次のように感じるがありますか。

次に、表1-2-3を用いて、子どもたちが学習しているときに感じることをみてみよう。この質問は、新学力観の影響などをみるために第2回調査からつけ加えられた質問である。質問は、理科、社会、算数、国語のそれぞれの教科について、教科を通して不思議さやすばらしさを感じるがあるか否か、そしてその教科の内容を考えたり調べたりすることが好きだったり意欲があるか否かを尋ねている。第3回調査からは英語によるコミュニケーションへの意欲も追加した。

「よくある」「時々ある」と回答した割合について第3回調査の結果をみると、不思議さやすばらしさを感じることは、「生き物や自然を『すばらしい』とか『ふしぎだな』と感じる」が81.6%でもっとも高く、続いて、「国語の教科書を読んでいて、登場人物や書いてある内容に興味をわいてくる」が68.2%、「社会のしくみや歴史のできごとを『すばらしい』とか『ふしぎだな』と感じる」が64.7%、「算数の考え方や解き方を『すばらしい』とか『ふしぎだな』と感じる」が58.1%で、算数がもっとも低い値になっている。

また、好きだったり意欲があるかについては、「自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいなと思う」の71.1%がもっとも高く、第2位に「生き物や自然のことを調べたり考えたりするのが好きだ」の64.3%、

そして第3位に新しく加えた「英語を使って外国の人と話したり、手紙を書いたりしてみたい」の60.5%が入り、これに「算数の問題の解き方を考えたり工夫したりするのが好きだ」が48.5%と続き、最下位に「社会のしくみや歴史のできごとを調べたり考えたりするのが好きだ」が42.3%となっている。このとき、「不思議さやすばらしさを感じること」と「好きだったり意欲があること」の間には、国語以外の3教科で、後者のほうが前者よりも10%から20%ほど低くなっている。つまり、「不思議さやすばらしさを感じること」がそのまま「好きだったり意欲を持つこと」へはつながらない。

同じ表で、性別には国語で女子のほうが男子よりも、不思議さやすばらしさを感じることに、好きだったり意欲を持つことが高い値になっている。また、「英語を使って外国の人と話したり、手紙を書いたりしてみたい」は女子が男子よりも30ポイント近く高い値になっている。

表1-2-4は、学習していて感じることを成績の自己評価別に表にしたものである。すべての項目で成績自己評価の下位者よりも中位者、中位者よりも上位者が、明確に肯定的な回答をしている。つまり、各教科に関して、不思議さやすばらしさを感じ、好きだったり意欲を持っている。さらに、表1-2-

5は、通塾・非通塾別および、学習塾のタイプ別に学習している感じることを表にしたものである。理科の「生き物や自然を『すばらしい』とか『ふしぎだな』と感じる」以外のすべてで、「進学塾」通塾者は「補習塾」通塾者よりも不思議さやすばらしさを感じ、好

きだったり意欲を持っている。

最後に、表1-2-6にあるように、各教科を好きな子どもは嫌いな子どもと比べて、きわめて明確に、その教科に対して不思議さやすばらしさを感じ、好きだったり意欲を持っている。

表1-2-3 学習している感じること（時系列・性別）

(%)

	第2回 (2665)	第3回 (2402)	第3回	
			男子(1238)	女子(1154)
生き物や自然を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	80.0	81.6	80.0	83.3
社会のしくみや歴史のできごとを「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	64.5	64.7	63.3	66.2
算数の考え方や解き方を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	55.3	58.1	57.0	59.3
国語の教科書を読んでいて、登場人物や書いてある内容に興味が出てくる	66.0	68.2	63.5	< 73.3
生き物や自然のことを調べたり考えたりするのが好きだ	56.2	64.3	66.1	62.4
社会のしくみや歴史のできごとを調べたり考えたりするのが好きだ	42.7	42.3	44.3	40.1
算数の問題の解き方を考えたり工夫したりするのが好きだ	48.5	48.5	54.2	≫ 42.4
自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいなと思う	75.5	71.1	65.0	≪ 77.6
英語を使って外国の人と話したり、手紙を書いたりしてみたい	—	60.5	47.2	≪ 75.2

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。注2) 第1回、—は該当項目なし。

注3) ≪ ≫は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。注4) ()内はサンプル数。

表1-2-4 学習している感じること（成績の自己評価別）

(%)

	上位(750)	中位(809)	下位(775)
生き物や自然を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	85.3	81.8	77.8
社会のしくみや歴史のできごとを「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	73.3	67.0	53.5
算数の考え方や解き方を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	69.5	58.8	46.6
国語の教科書を読んでいて、登場人物や書いてある内容に興味が出てくる	77.6	69.6	58.2
生き物や自然のことを調べたり考えたりするのが好きだ	69.3	63.0	60.3
社会のしくみや歴史のできごとを調べたり考えたりするのが好きだ	54.7	40.5	31.2
算数の問題の解き方を考えたり工夫したりするのが好きだ	67.6	45.7	32.8
自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいなと思う	78.5	74.8	60.0
英語を使って外国の人と話したり、手紙を書いたりしてみたい	67.5	64.2	50.5

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) 成績の自己評価は、「あなたの今の成績はクラスの中でどのくらいですか」の項目に、「1(上のほう)~3」と回答した児童を「上位」、「4(真ん中)」を「中位」、「5~7(下のほう)」を「下位」とした。注3) ()内はサンプル数。

表1-2-5 学習していて感じること(通塾・非通塾別/塾のタイプ別)

(%)

	通塾者 全体 (807)	通塾(塾のタイプ)			非通塾者 (1253)
		補習塾 (455)	進学塾 (224)	その他 (101)	
生き物や自然を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	83.4	84.6	83.5	81.2	81.9
社会のしくみや歴史のできごとを「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	69.0	65.9	75.4	72.3	62.7
算数の考え方や解き方を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	63.6	59.8	70.5	66.3	56.8
国語の教科書を読んでいて、登場人物や書いてある内容に興味をわいてくる	73.5	70.3	81.3	74.3	65.9
生き物や自然のことを調べたり考えたりするのが好きだ	64.3	62.9	67.9	64.4	64.5
社会のしくみや歴史のできごとを調べたり考えたりするのが好きだ	47.0	42.4	60.7	38.6	40.7
算数の問題の解き方を考えたり工夫したりするのが好きだ	56.2	50.8	68.3	57.4	45.4
自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいなと思う	72.2	71.9	74.6	71.3	72.0
英語を使って外国の人と話したり、手紙を書いたりしてみたい	66.4	63.5	72.8	68.3	58.9

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) ()内はサンプル数。

表1-2-6 学習していて感じること(教科の好き嫌い別)

(%)

	国語の好き嫌い	
	好き(1313)	嫌い(364)
国語の教科書を読んでいて、登場人物や書いてある内容に興味をわいてくる	78.4	47.3
自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいなと思う	80.0	51.6
	社会の好き嫌い	
	好き(1192)	嫌い(465)
社会のしくみや歴史のできごとを「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	74.1	45.4
社会のしくみや歴史のできごとを調べたり考えたりするのが好きだ	58.5	16.8
	算数の好き嫌い	
	好き(1335)	嫌い(531)
算数の考え方や解き方を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	70.7	33.9
算数の問題の解き方を考えたり工夫したりするのが好きだ	67.6	13.0
	理科の好き嫌い	
	好き(1639)	嫌い(236)
生き物や自然を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	85.7	63.6
生き物や自然のことを調べたり考えたりするのが好きだ	72.8	36.9

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) 「好き」は「とても好き」「まあ好き」と回答した児童、「嫌い」は「まあ嫌い」「とても嫌い」と回答した児童。

注3) ()内はサンプル数。

3. 学習上の悩み

「問題が解けたり、何かがわかるとうれしい」が81.0%、「新しいことを知るのが好きだ」が62.3%と回答しており、“新学力観的な意味”で学習に対して肯定的である。「もっと成績をよくしたい」が80.3%で成績志向も強い。



あなたは勉強について、次のように思うことがありますか。

表1-2-7を見ると、小学生は、「問題が解けたり、何かがわかるとうれしい」が81.0%、「新しいことを知るのが好きだ」が62.3%と回答しており、“新学力観的な意味”で学習に対して肯定的である。悩みとしてもっとも割合が高かったのは、「もっと成績をよくしたい」の80.3%で成績志向も高い。また、「どうしても好きになれない科目がある」が63.7%と、教科の好き嫌いが悩みの原因と

なっている。そして、およそ4割の子どもが「わかりやすい授業にしてほしい」(41.3%)、「覚えなければいけないことが多すぎる」(39.7%)と学習の困難を訴えている。さらに、「上手な勉強の仕方がわからない」は30.5%と3割になっている。ただし、「何のために勉強しているのかわからない」という疎外感は12.6%と少ない。また、学習上の悩みの性差は小さい。

表1-2-7 学習上の悩み（性別）

(%)

	全体 (2402)	男子 (1238)	女子 (1154)
問題が解けたり、何かがわかるとうれしい	81.0	77.6	< 84.7
もっと成績をよくしたい	80.3	80.4	80.3
どうしても好きになれない科目がある	63.7	61.0	< 66.6
新しいことを知るのが好きだ	62.3	64.6	60.0
勉強で友だちに負けたくない	55.5	57.6	53.3
わかりやすい授業にしてほしい	41.3	42.2	40.3
覚えなければいけないことが多すぎる	39.7	41.2	38.0
4年生までにもっと勉強しておけばよかった	35.4	36.8	33.8
上手な勉強の仕方がわからない	30.5	27.9	< 33.3
何のために勉強しているのかわからない	12.6	13.2	11.8

注1) 複数回答。

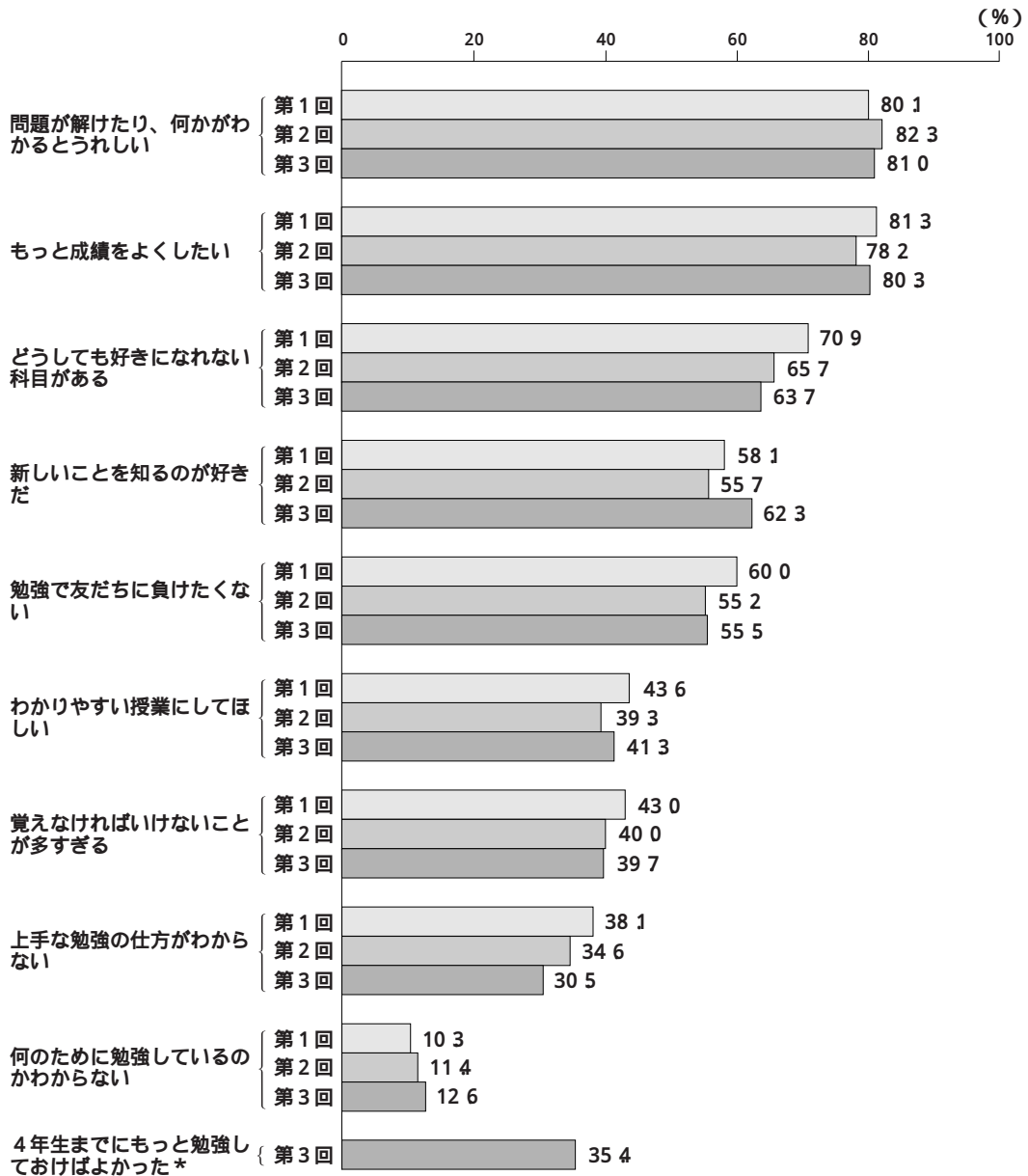
注2) < > は男女で5%以上差があるもの。

注3) () 内はサンプル数。

図1-2-4で、この11年間の変化をみると、「上手な勉強の仕方がわからない」(第1回38.1% 第2回34.6% 第3回30.5%)や「どうしても好きになれない科目がある」(70.9% 65.7% 63.7%)と勉強方法や興

味を持ってないことからくる悩みが減少している。反対に、第2回調査から第3回調査にかけて「新しいことを知るのが好きだ」が増加している。一連のカリキュラム改革の成果が現れているのかもしれない。

図1-2-4 学習上の悩み(時系列)



注1) 複数回答。

注2) *は第1回、第2回に該当項目なし。

注3) サンプル数は第1回2578人、第2回2665人、第3回2402人。

4 . 進路・進学意識

① 中学受験と希望する進学段階

中学受験希望率は、第1回15.7% 第2回17.7% 第3回17.9%であった。また、将来希望する進学段階は、「わからない」が第1回調査と第3回調査の間で12ポイントも減少し、小学生の進路意識が明確化した。また、「中学校まで」「高校まで」「専門学校・各種学校まで」の合計が28.1%から46.6%へと増加し、高学歴志向が弱まった。



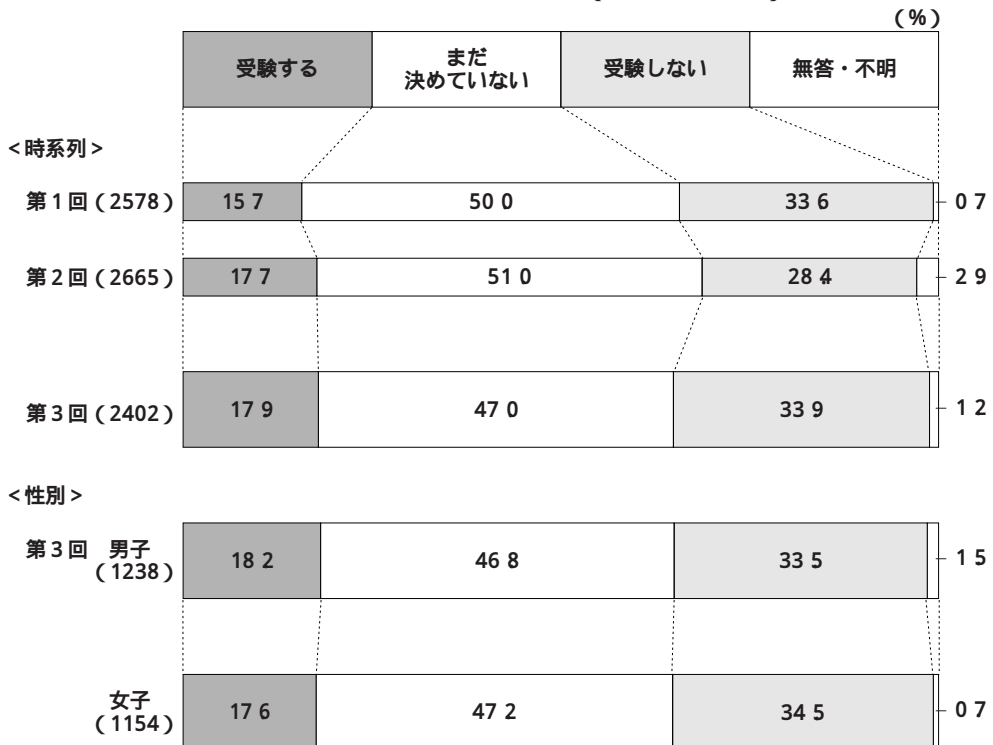
あなたは、どこかの中学校（私立中学校や国立大学の附属中学校）を受験しようと思っていますか。

あなたは将来、どの学校まで進みたいですか。

中学受験を希望する子どもの割合は、図1-2-5にあるように、第1回調査の15.7%から、第2回調査は17.7%と微増し、第3回

調査はほぼ同じ水準の17.9%であった。また、性別では男子が18.2%、女子が17.6%でほぼ同じ割合であった。

図1-2-5 中学受験の希望（時系列・性別）



注）（ ）内はサンプル数。

表1-2-8は、希望する進学段階を尋ねた結果である。この表で注目したい第一の傾向は、「わからない」(第1回32.7% 第2回29.2% 第3回20.6%)が、第1回調査と第3回調査の間で12ポイントも減少したことである。小学生の進路意識が明確化したのである。この表で注目したい第二の傾向は、高学歴志向が弱まったことである。第3回調査でもっとも希望率が高いのは、「高校まで」(19.4% 23.4% 27.8%)で、その他「専門学校・各種学校まで」(7.5% 10.9% 15.2%)と「中学校まで」(1.2% 2.1% 3.6%)を合計すると28.1% 36.4% 46.6%と増加している。これに対して、「四年制大学まで(大学院を含む)」(23.2% 24.8%

22.8%)、「短期大学まで」(15.7% 8.4% 7.9%)であり、合計すると38.9% 33.2% 30.7%と減少をみている。なお、大学進学希望者のうち「大学院まで」(第2回10.4% 第3回9.3%)はおよそ1割であった。

最後に、表1-2-9で中学受験希望の有無別に将来希望する進学段階をみると、受験希望者は「四年制大学まで」「大学院まで」が39.4%であるのに対して、受験をしない子どもは半分以下の17.7%であった。これに対して、「中学校まで」「高校まで」とする割合は、受験希望者では18.9%に対して受験をしない者では38.6%と倍以上になっている。中学受験をするか否かで小学5年生の段階から進学意識が大きく異なっている。

表1-2-8 希望する進学段階(時系列・性別)

(%)

	第1回(2578)	第2回(2665)	第3回(2402)	第3回	
				男子(1238)	女子(1154)
中学校まで	1.2	2.1	3.6	4.4	2.6
高校まで	19.4	23.4	27.8	30.5	> 25.0
専門学校・各種学校まで	7.5	10.9	15.2	9.4	<< 21.6
短期大学まで	15.7	8.4	7.9	6.1	9.7
四年制大学まで	23.2	14.4	13.5	15.3	11.7
大学院まで	—	10.4	9.3	9.3	9.3
その他	—	—	1.3	2.0	0.6
わからない	32.7	29.2	20.6	21.7	19.2

注1) —は該当項目なし。

注2) <>は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。

表1-2-9 希望する進学段階(中学受験の希望別)

(%)

	中学校、 高校まで	専門学校・ 各種学校、 短期大学まで	四年制大学、 大学院まで	わからない	その他
全体(2402)	31.4	23.1	22.8	20.6	1.3
受験する(429)	18.9	23.3	39.4	15.2	2.8
まだ決めていない(1130)	31.2	23.0	20.4	24.0	1.2
受験しない(814)	38.6	23.5	17.7	19.2	0.9

注1) 中学受験希望の質問で、「無答・不明」の29名は表から省いた。

注2) ()内はサンプル数。

② 将来つきたい職業

将来つきたい職業を具体的に記入してもらったところ、カタカナ名の職業が多数あった。また、スポーツ選手や専門職、社会＝経済的地位の高い職業のほか、美容師やペットショップなどの華やかで技能を伴う職業が多くあげられている。



あなたが将来、つきたい仕事は何ですか。

次にあげる職業のリストは、将来つきたい具体的な職業名をあげてもらった結果である。ここでは、ランダムに449名の児童を抽出している。将来つきたい職業を具体的に記入してもらったところ、カタカナ名の職業が多数あった。また、スポーツ選手や専門職、社会＝経済的地位の高い職業の他、美容師やペットショップなどの華やかで技能を伴う職業が多くあげられている。太字で書いてあるのは複数回答があった職業（人数）である。

アナウンサー（2）/アナウンサー、歌手/アニメの声優/イタリア料理の店員/イラストレーター（3）/ウェイトレス/うどん屋/お店屋さんの人/お菓子屋（2）/お寿司屋/お笑い芸人/お店の店長、美容師/お店を開く（3）/お店屋/お父さんのパソコンの仕事を手伝う/お父さんの後継ぎ/カメラマン（3）/ケーキ屋（6）/ケーキ職人/ゲームデザイナー（6）/ゲームデザイナー、マンガ家/ゲームを作る人/ゲーム屋/ゲーム屋、おもちゃ屋、くいもん屋/ゲーム会社/ゲーム関係/コック（3）/コンビニ、美容師/コンビニで働く人/コンビニのバイト/コンビニの店員/コンビニの店長、会社員/コンピュータグラフィックに関する仕事/コンピュータグラフィックの制作/サラリーマン（4）/スタイリスト、後継ぎ/スタントマン/スチュワーデス（3）/スチュワーデス、タレント/スパイクを作っている会社/スポーツで使う物を作る会社員/スポーツ選手/スポーツ選手日本代表/ソフトボールの先生/ソフトボール選手/タクシーの運転手/ダンスの先生/デザイナー/デザイナー、洋服屋/デザイナー、メイクさん、美容師/デザイナー、学校の先生/テレビの司会、警察、プロのサッカー選手/トラックの運転手、コック/トラ

ック運転手/トラック運転手、ゲームデザイナー/トラック運転手、碎石会社/トランポリンの先生/トリマー/パーマ屋（2）/バイクスタント/パイロット/パイロット、野球選手/バスケット選手、ミニバスを教える人/バスの運転手/パソコンを作る仕事/パソコン関係のサラリーマン/バレーボール関係の仕事、できれば監督、コーチ/バレーボール選手/バレリーナ、バレエの先生/パン屋（3）/パン屋、ケーキ屋、花屋の店員/ピアニスト（2）/ピアノ、スポーツの先生/ピアノの先生（2）/ファッションデザイナー（2）/ファッションデザイナー、スタイリスト/プロサッカー選手（5）/プロサッカー選手、大工/サッカー選手（16）/サッカー選手、ボールを作る人/サッカー選手、小学校の先生/プロ野球選手（25）/野球選手（15）/プロ野球選手（メジャー）/プロ野球選手、大工/ヘアメイクアーティスト/ペットショップ/ペットショップで働く/ペットショップの人/ペットショップの店員（3）/ペットショップ屋/ペット屋/ペットブリーダー/花屋でバイト/ペンキ屋/まじめな会社員/マンガのキャラクターの絵を描く、マンガ家/マンガを描く仕事/マンガ家（5）/マンガ家、ゲームを作る人/マンガ家、ドラマのヒロイン/マンガ家、医者/マンガ家、中国でパンダ保護会に入る/マンゴー畑の仕事/みんなの役に立てる医者/メイクさん/メイクさん、美容師、レストラン、ケーキ屋/ラーメン屋/リボンアートとかで花を作ったりしたい/レストラン/レストランの店員、坊さん/医者（3）/歯医者（2）/医者、看護婦、保護員などみんなの役に立てる人/医者、スチュワーデス/医者、看護婦/医者、牧師/一流会社のキャリアウーマン/宇宙飛行士/家の仕事を手伝う/科学者（5）/歌手（7）/歌手、雑貨屋/歌手、小学校の先生、保姆/歌手、野球選手、ゲームソフトを作ったり考えたりする、アイドル、ピアノの先生/花屋（10）/花屋、獣医/花屋、幼稚園の先生/画家/会社の社長（2）/会社員（2）/絵を描

く / 学校の先生 (6) / 環境を取り戻す仕事 / 環境を守る仕事 / 看護婦 (7) / 看護婦、ハンバーガー屋の店員、メイクさん、ケーキ屋、パン屋 / 看護婦、歌手 / 看護婦、保母 / 機械を造る仕事 / 機械を造ったりする仕事 / 記者 / 競艇の選手 / 恐竜の化石を掘り出す仕事 / 教授 / 靴を作る会社の人 / 警察官 (5) / 警察官、刑事 / 建材会社の社長 / 建設する家などの模型を作る人 / 建築家、マンガ家 / 犬の調教師 / 後継ぎ / 考古学者 / 事務所で働く / 耳鼻科の医者、動物を飼ってふれあうことができるようなお店を出す / 自然づくり / 自分の会社で働く / 書道の先生 / 社会人 / 車のレーサー / 車の整備をする人 / 車の設計の人 / 寿司屋 / 獣医 (2) / 獣医、美容師 / 塾の先生 / 将棋の名人 / 小学校の教師 / 小学校の先生 / 小説家、マンガ家 / 小物屋 / 消防士 / 焼き鳥屋 / 図工の先生 / 図書館の貸し出し係 / 水泳の先生、人の役に立てるような仕事 / 水泳選手、看護婦 / 政治家、キャリア、空軍、ゲームデザイナー、警察官、獣医 / 生物を観察する仕事 / 石材業 / 戦闘機や潜水艦を造る / 大工 (13) / 大工、ゲームを作る人、普通の

会社員 / 大工、パン屋、バスの運転手 / 大工、教師、ラーメン屋、文房具屋 / 卓球を教える先生 / 宅配便みたいな仕事 / 通訳 (2) / 鉄道の運転手 (2) / 電力会社の社員 / 東京大学の先生 / 動物とかかわり合える仕事 / 動物のお医者さん / 動物園の飼育係 / 動物園の人 / 動物関係の仕事 / 動物病院などの医師 / 動物保護官 / 縄跳び選手 / 農家 / 販売員 (レジ、ラッピングなど) / 美容師 (6) / 美容師、サッカー選手、サッカーのコーチ / 美容師、料理人、ペット屋の店長 / 病院、ケーキ屋 / 弁護士 / 弁護士、検事、医者 / 弁護士、裁判官、デザイナー / 保育園の先生 / 保健の先生、マンガ家 / 保母 (13) / 保母、デザイナー / 牧場 / 牧場や動物園のような動物の世話ができる場所 / 本屋 / 本屋の店員 / 未定 (決めていない) (40) / 薬屋 / 薬剤師 (3) / 友だちと車屋になって自分オリジナルの車を造る / 有名人 / 幼稚園の先生 (2) / 洋服のお店を開く / 洋服屋 / 料理 / 料理の先生 / 力仕事 / 老人ホームでおじいさんおばあさんの世話をする、花屋 /